主幹 海老名彈正
主筆 安井哲子

要目

泥棒根性の撲滅 海老名彈正
輓近女學界の趨勢に就て 成女學校長 宮田脩
物を遣る心得 法科大學助教授 吉野作造
妾の過去 女子學院長 矢島揖子
吾國家庭觀察の一二 安井哲子
うたがたの記 松井とも子
人間の教養 海老名彈正
家庭學校を訪ふ 一記者

十月號

第壹巻第七號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無菌
牛乳
山羊乳
神田三崎町
愛光舎
電話本局一三〇三番

天上天下唯我獨尊
千代田香油
特製七十
大瓶三十五錢
中瓶二十五錢
小瓶十七錢
千代田香油
千代田香油
東京馬喰町四
山岸三之助製

新女界第一卷第七號目次

●泥棒根性の撲滅　海老名彈正
●周圍の人に親切なれ　安井哲子

思想

●輓近女學界の趨勢に就て　成女學校長　宮田脩
●物を遣る心得　法科大學助教授 法學士　吉野作造
●妾の過去　女子學院長　矢島揖子

家庭

●家庭教育觀察の一二　安井哲子
●子女教育に關する母の務　海老名みや子
●流行せる脳脊推炎の話　醫學士　金子魁一

文苑

●うたかたの記　松井とも子
●吾等は七人(新體詩)　萩畔生
●痲痺したる良心(同)　佐藤澱橋
●海より(短歌)　松川信男
●みちのくの旅(同)　野口精子

講壇

●人間の教養　海老名彈正

雜録

●家庭學校を訪ふ　一記者
●骨相談片　最上宏
●編輯だより

新女界第六號(前號)目次

●現代女子のたしなみ　海老名彈正
●一時的生活と永遠の生活　安井哲

●思想

●女子の高等教育に就て　文學博士　元良勇次郎
●女性の逆理　女子大學講師　村田勤
●修養瑣談　野口末彥
●米國男女學生々活　理科大學講師 哲學博士　谷津直秀

●家庭

●今年の我が避暑生活　海老名みや子
●妻としてのモネカ　聖山生

●文苑

●ゆきあたりばつたり集　在オクスフォルド大學　內ケ崎作三郎
●その夜　藤なみ子

●講壇

●限りなき生命　海老名彈正

●雜録

●他人の所有物の取扱に就て　安井哲
●彙報●編輯だより

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ライオン齒磨慈善券 第八回決算報告

（引換殘餘金）

一金壹萬七千百七拾參圓參拾七錢六厘

但（自明治四十一年一月至同年十二月）滿一ヶ年間ライオン齒磨小袋壹千七百拾七萬參千參百七拾六袋賣捌に付此慈善券總金額

內金九千〇貳拾五圓參拾貳錢　但同上年間ライオン齒磨慈善券附空袋九百〇貳萬五千參百貳拾袋引換金額

差引　金八千百四拾八圓〇五錢六厘

內金壹千五百拾五圓拾壹錢　但（自明治四十二年一月至同年八月十五日）ライオン齒磨慈善券附空袋百五拾壹萬五千百拾袋引換金額

差引引換未濟　金六千六百參拾貳圓九拾四錢六厘

右金額左記の通り分配致候也

金參百五拾圓　岡山孤兒院
金貳百[illegible]拾圓　東京市養育院
金貳百圓　博愛社
金貳百圓　東京感化院
金貳百圓　福田會育兒院
金貳百圓　函館慈惠院
金貳百圓　京都市立盲啞院
金壹百圓　大阪汎愛扶植會
金壹百圓　東京出獄人保護所
金壹百圓　家庭學校
金壹百圓　日本力行會
金壹百圓　橫濱孤兒院
金壹百圓　神戶孤兒院
金壹百圓　熊本回春病院
金壹百圓　小野慈善院
金壹百圓　同仁會
金六拾圓　廣島孤兒院
金六拾圓　幼年保護會
金六拾圓　長崎盲啞學校
金六拾圓　長崎孤兒院
金六拾圓　東京育成園
金八拾圓　救世軍社會事業部
金六拾圓　瀧の川學園
金六拾圓　婦人共立育兒會
金六拾圓　清水育兒院
金六拾圓　平安德義會孤兒院
金六拾圓　大阪市立盲啞學校
金六拾圓　東北慈惠院
金六拾圓　愛知育兒院
金六拾圓　讃岐保育會孤兒院
金六拾圓　愛媛保護場

金六拾圓　廣島育兒院
金六拾圓　慰廢園
金六拾圓　肥後慈惠會
金六拾圓　龍華孤兒院
金六拾圓　山陰慈育家庭學院
金六拾圓　松江育兒院
金六拾圓　小兒保育園
金六拾圓　上毛孤兒院
金六拾圓　越佐佛教育兒園
金六拾圓　大勸進養育院
金六拾圓　仙臺育兒院
金六拾圓　戰役紀念保育會
金四拾圓　小林授產場
金四拾圓　浦上婦人同志育兒所
金四拾圓　身延深敬病院
金四拾圓　興風會
金四拾圓　花畑施療院
金四拾圓　友愛社
金四拾圓　日本育兒院
金四拾圓　三重感化院
金四拾圓　二葉幼稚園
金四拾圓　無料宿泊所
金四拾圓　竹貫育兒園
金四拾圓　東京養老院
金四拾圓　慈善惠華學院
金四拾圓　大阪孤兒院
金四拾圓　大阪養老院
金四拾圓　大阪約翰學園
金四拾圓　兵庫縣出獄者保護會院
金四拾圓　神戶救民院
金四拾圓　神戶訓盲院

金四拾圓　神戶報國義會
金四拾圓　播磨慈善會育兒院
金四拾圓　京都救濟院
金四拾圓　名古屋養老院
金四拾圓　豐橋育兒院
金四拾圓　長岡盲啞學校
金四拾圓　甘露育兒院
金四拾圓　靜岡成美學校
金四拾圓　滋賀縣保護院
金四拾圓　岐阜訓盲院
金四拾圓　三重育兒院
金四拾圓　津養育院
金四拾圓　愛媛慈惠會
金四拾圓　高知育兒院
金四拾圓　海南慈善會
金四拾圓　鳥取孤兒院
金四拾圓　防長孤兒院
金四拾圓　薩摩會孤兒院
金四拾圓　佐賀孤兒院
金參拾圓　深敬保育園
金參拾圓　鹿兒島盲啞學校
金參拾圓　鹿兒島孤兒院
金參拾圓　富山慈善會
金參拾圓　秋田出獄人保護所
金參拾圓　福島育兒院
金參拾圓　小樽孤兒院
金參拾圓　東北育兒院
金參拾圓　羽陽佛教育兒院
金參拾圓　埼玉慈善會保護院
金參拾圓　茨城縣保護會
金參拾圓　會津孤兒院

金參拾圓　高崎育兒院
金參拾圓　遠江育兒院
金參拾圓　大分育兒院
金參拾圓　石見慈育院
金參拾圓　和敬孤兒院
金參拾圓　佛慈養育院
金參拾圓　清風園保護會
金參拾圓　川越兒童保護學院
金參拾圓　小樽施療院
金參拾圓　平安養育院
金參拾圓　九華育兒院
金參拾圓　滋賀縣育兒院
金參拾圓　盛岡孤兒院
金參拾圓　愛育社
金貳拾圓　郡山訓盲學校
金貳拾圓　成田感化院
金貳拾圓　前橋育兒院
金貳拾圓　岩國孤兒院
金貳拾圓　寶珠育兒院
金貳拾圓　魚沼孤兒院
金貳拾圓　富士育兒院
金貳拾圓　東京愛隣社
金貳拾圓　慈愛舘
金貳拾圓　大日本慈善協會
金拾貳圓九拾四錢六厘　少年修德會愛育院

合計金六千六百參拾貳圓九拾四錢六厘

弊店曩に汎く廣告して大方諸彥の御高見を仰げり要はライオン齒磨小袋入添附の慈善券に於ける昨四十一年十二月に終る引換券未了殘餘の處理及び方法等の懸案に闗し弊店は之に對して八月十五日迄其引換を延期し猶是が完結を見る能はずんば該金額は如何に處辨すべきかの問題なりし抑々弊店か如何に斯く諸彥の智囊までをも煩すの必要あるかと云ふに其は云ふ迄もなくライオン齒磨の慈善券より生ずる金額は其悉皆を擧て世の不幸なる鰥寡孤獨を救濟するの一助に資せんと欲する微衷たるに拘らず加ら其素願を遂行することも亦既に八星霜を閱したる今日猶曩に廣告したるが如く當然引換を了せらるべき筈なる額の斯く多額の殘れるものあるを見ろは弊店の最も遺憾とする所なればなり然るに江湖諸彥も亦幸に弊店の心情を洞察せられ其引換未濟金額の處分法に就て示敎を辱ふせらるゝもの無慮數百通の多きに達し而も其多くが何れも前例に因て慈善事業に喜捨すべしとの高敎に於て全然相一致せるに至ては弊店の大に滿足とする所なり因て弊店は更に市内特約販賣店主

灰谷儀助君　協田盛眞堂君　田中吉兵衛君　柳下藤五郎君　天野源七君　佐々木玄兵衛君　佐野小兵衛君　三輪善兵衛君　平尾贊平君

諸氏の協贊審議を經て即ち前記の如く確定し直に其寄附萬般の手續を盡了せり

以上の如く茲に第八回の決算を明かにするを得たるは是全く愛用諸彥が深き御同情に因れる賚きものとして弊店厚く其光榮を感謝し猶倍舊御愛顧伏て希上する所なり

明治四十二年九月

ライオン齒磨本舖　東京市神田區柳原河岸

小林富次郎

支舖　大坂市東區博勞町二丁目
清國、天津日租界、漢口河街

新人十月號目次

開教五十年紀念號

●社説

●開教五十年を祝す

●教壇

●人格の價値　海老名彈正

●想苑

●宣教五十年紀念の感想　文學博士　井上哲次郎

●廿世紀の基督教　法學博士　浮田和民

●吾國の文明と基督教　女子大學校長　成瀨仁藏

●愛國者と基督教　島田三郎

●加藤博士の無神自利説を評す　白石喜之助

●耶蘇道　文學士　栗原基

●齋藤信策君を憶ふ　文學士　小山東助

●北歐詩人の宗教觀　文學士　川島金五郎

●詞藻

●野の人を憶ふ　澁谷淺香

●靜夜山脇操君を憶ふ　佐藤清

●義人古田君　不喚樓主人

●珠の列(和歌)　佐藤茂

●广山集(俳句)　不喚樓主人

●雜俎

●日本に於ける宣教師事業の將來　ゼー、デー、デビス

●日本神學の建設　安部清藏

●日本に於ける基督教の過去と將來　エッチ、ペッドレー

●宣教五十年紀念祝會に就ての感想及希望

シットニー、ギユリック、大賀重吉、宗像鴨四郎、
原田助、渡瀨常吉、柏木義圓、加藤直士、
佐々木高、伊吹岩五郎、今泉眞幸、佐伯理一郎、
今岡信一良諸氏の開書

●時評

●日本組合教會總會に望む●書齋漫錄●我觀錄●彙報

カメリヤ
洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の
巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀
なる美貌は最新の化粧法により配
劑せられたる高等美身料カメリヤ
洗粉の常用によりて
顯はる本品の小量を
微温湯に溶解し洗面
―を試みよ花香芬々と
して心身爽快を覺
ゆるのみならず顔
面潔白となりて艶
を生じ年若き花の
顏となるべし
定價
大瓶 壹個廿五錢
小瓶 同 十五錢
大袋 同 五錢
小袋 同 三錢
鑵入 同 十三錢
發賣元 ライオン齒磨
本舗 東京神田
小林富次郎

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京小石川上富坂二三
コーツ邸内

京屋 佐藤松治郎

御一報次第直ちに參上可仕候

第二版

ツルゲーネフ大作　戸川秋骨敲戸會同人共譯

獵人日記

新興文學之代表作　飜釋文學之一光彩

盛裝菊判一册函入
紙數七百七十頁
定價貳圓卅錢
送料拾六錢　臺清韓四拾錢

十九世紀の大作たる本書は有らゆる家庭に推薦すべき清新なる近代小說のクラシック也、深厚なる同情を以て直寫されたる社會各階級の寫生也

第五版

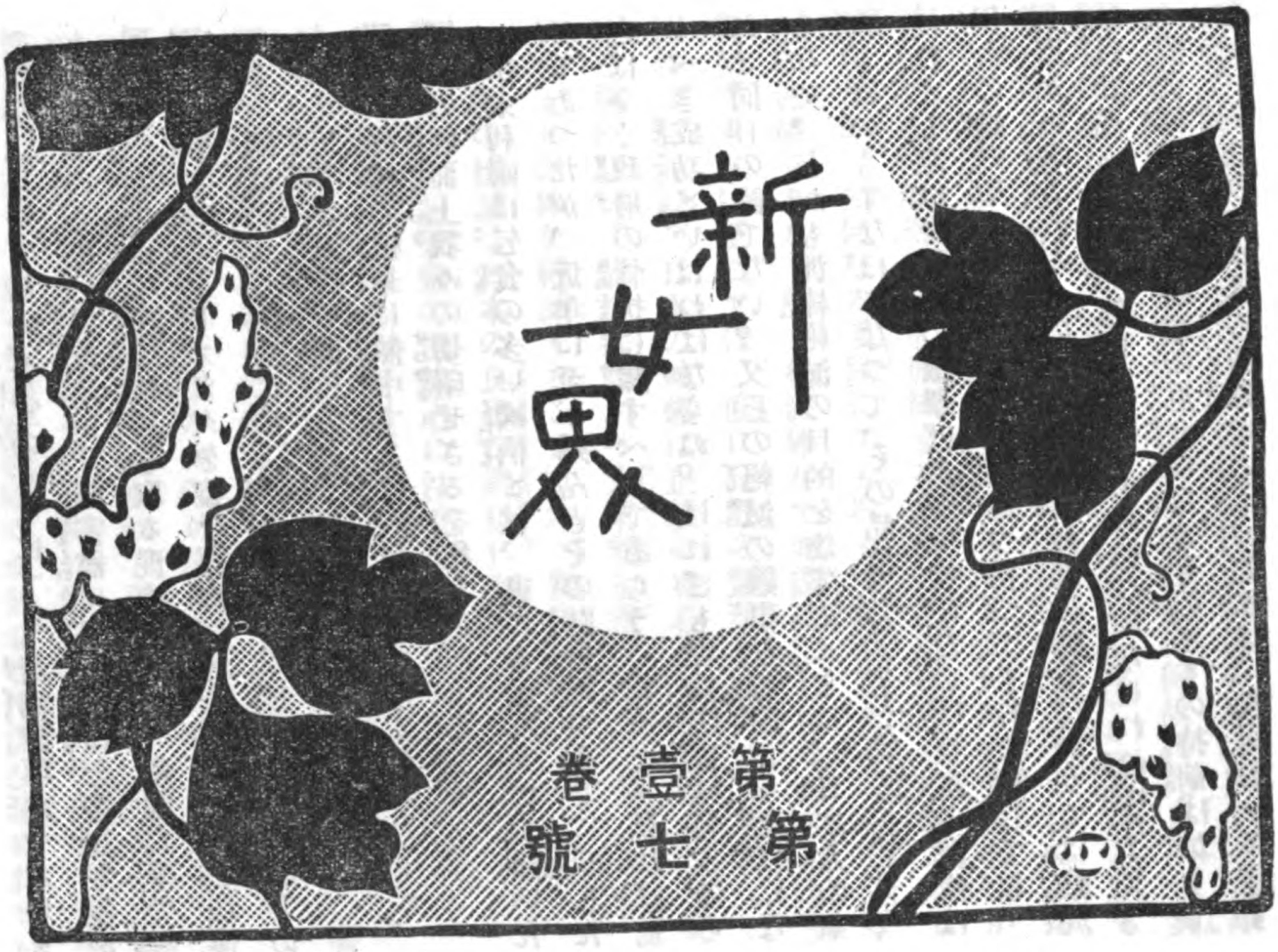
シエンキエ井ツチ傑作　QUO VADIS

何處ニ往ク

坪內文學博士序　松本雲舟譯

美裝菊版一册畫入
紙數五百頁
定價壹圓貳拾錢
送料拾貳錢臺清韓卅五錢

東京本郷弓町一の二　昭文堂　振替口座東京七六七四番



泥棒根性の撲滅

海老名彈正

近頃警視廳にて泥棒の大檢擧を實施して居るのであるが、日本社會の爲に最も賀すべきことである。諺に人を見れば泥棒と思へといふ、誠に以て恥しき次第、奇妙なる諺もあればあるものか、歐米などでは迚も聞くを得ないのである。この諺によれば、日本人は片端から泥棒であると解せねばならない。同胞を侮辱するも亦甚しいのである。嘗て或る人がその同鄕の名高い實業家にその取るべき職業の相談をした。友人は話頭一番、君は人を見たらば直に泥棒だらうといふ氣がするのかしないのかどうかと問ふた。彼はいふ僕はそう思へぬと。しからば君は斷じて實業家にはなれないといつたそうだ。彼は友人の忠言に從ひ、實業家たらんとの志望をすて、教育家となつた。日本は實に泥棒の多い國である、滊車に乘るにも電車に乘るにも道路を步むにも、街衢に立つにも、造次顚敗泥棒の用心ばかりして居らねばならない、芝居見物の場

所はいふまでもない、會堂のうちにても、祈禱を事とするときも、泥棒の心配を免れない。圖書館にては書籍を盗むものが居る運動場には學生の外套を取る泥棒が居る。帝國大學の敎室には學生のノートブックを盗む泥棒が居る。日本ほど泥棒の多い國は恐らく世界にはよもあるまい。日本は泥棒國であるとの評判か萬國の間に名高くならないとも量られない。警視廳が泥棒の檢擧に熱中するは人民の爲めなるのみならず、國家の體面上我々の切望せざるを得ない所である。

伊太利國は乞食の多い國柄とは、書にも讀み人にも聞いたのであつたが、近年に至り殆んどその跡を絶つまでに減じた之は全く政府の骨折に歸すべきであらう。我々より見れば驚くべき成功といはねばならぬ。けれども泥棒の害は乞食のそれと同日の論でない。又その絶滅の難事なる固より比較にならない、しかも泥棒絶滅の目的を達するときは、日本人の氣風も自からすなほになつて、その品格が忽ち上るのであらう、けれども之は警視廳の檢擧ばかりでゆかない。日本の泥棒は田舍の蠅のやうであつて、何程追つ拂つても打ち殺しても、到底かり盡されるものでない、警視廳の檢擧ばかりでは結局駄目と思ふ、宜しく敎育家の苦心に待つ所なければならぬ。一體泥棒根性は警視廳の厄介になるものどもの持前ばかりでない、固より日本人の特性といふが如きは、我同胞を侮辱するの甚しきことで、愼むべきことなれども、此根性が偏く行き渡つて居ることは疑ない元來不正な利益を貪らうとする根性は中々行き渡つて居る。新橋や米原のステーションにて旅客の物品を盗む役員の少くない事實が暴露したのであるが、之は決して此二ステーションに限られた話であるまい必ず廣く行き渡つて居るのであらう。預り物品窃盗のことは公然の秘密、一々咎め立ての出來ないやうである。東京大坂の如き大都の商店に於て泥棒の居らない所は珍しい、片端から泥棒が行はれて居る。店員の泥棒は尙初から豫算に入れてある位といふ。從來警察では掏摸の親分を使用して掏摸をつかまへ、泥棒の親方を利用して泥棒を捕へつてあつたかの評判もあるが、日本の社會組織は稀代である。泥棒の上に泥棒をおき又その上に泥棒をおいて監督させて居る。この泥棒根性の普及は恰も水の偏在するやうに思はるゝ。故に兒童敎育より此根性を撲滅するに熱中しないでは帝國の泥棒は絶滅しないのであらう。帝國より泥棒を驅逐し盡すにあらざれば、日本の體面は何時までも其汚辱をそゝぐことはできない。

日本在來の宗敎は泥棒撲滅には餘り勉めなかつたものと見ゑる。畢竟するに宗敎が倫理的でないから、泥棒しても祈願が聞かれ、西方淨土に成佛が出來ると思ふ。之れは全くの了見違である。神とひ佛といふものが善ならざれば、それは眞

の神でもなく佛でもない。泥棒根性は神佛の厭ふ所、今更事新しく論ずるまでもない。日本の宗教家が何故に此自明の眞理を輕視して放擲し去つたかは、實に不思議なる疑問である。色々理由もあらうが、一はその神佛が正義の人格として了解せられて居らなかつたからであらう。又人が汗水を流してかちゑたる物品や金錢を泥棒する心根の何處に慈悲心があるであらうか、如何なる手段にても取るべからざる不正の利を取るは泥棒である。然るを泥棒して大成功なしたるかの如き意氣を有するに至つては、直に良心の闇黑を自白するものといはねばならぬ。日本の神佛は正義の良心より仰ぎ信じたるものと見ゑない。故に宗教が一大革新を遂ぐるにあらされば、日本より泥棒を絶滅することは六ケ敷のであらう。

泥棒の撲滅は日本の良民が總掛になつてせねばならない。家庭に於ても兒童の泥棒心に注意するの必要がある。固より良家の兒童には此心の萠芽がある筈はないのであるが、けれども一般普通の兒童には日本社會の影響を受けて居ることは亦疑ない、慈母なるものが赤誠を盡して之を撲滅せねばならない。或る良家の善良なる少年が惡青年の誘惑と强迫とによつて、賽錢泥棒の立番を命ぜられ、その報賞として菓子を與へられたが、正直に之をその慈母に自白した、そのとき慈母は井傍に連れ行き三十杯も吊桶の水をかけて洗ひ清めたといふ。此の如き義烈の母は近頃少ないのであるが、此位熱烈なる慈母心の洗禮を受けなくては、日本兒童の泥棒心は絶滅しないのであらう。

之を要するに日本社會を荼毒する泥棒根性の撲滅は政府と學校と教會と家庭と良民とが總掛となるにあらざれば何時までも遺存して帝國の汚辱となるであらう、眞に痛しき限りである。

周圍の人に親切なれ

安井哲

一

犬が一片の肉の爲めに、其仲間と噛み合ひをしたり、子供が少許の御菓子の爲めに、兄弟喧嘩をするのは、人間や大人には實に笑ふべき事の樣に見ゑますが、併吾々成人も亦之れと同樣の行爲をして居る事に、自ら氣が附かぬ事が多くあります。今最簡單な例を擧げて見ますれば、電車の中で一の空席があれば、我先にと之れを占領し、又汽車の中で他人の立ち疲れて居るのを見ながら、平氣で横臥して居たり、或は又周圍の人が寒くても、自分が暑ければ他人の都合もかまはずに窓を開け、隣りの人を强い日光が射ても、直側にある「ブラ

インドレを閉ちてあげやうとも思はぬのは、犬や子供の行爲と大同小異であります。今日吾々が不見不識の人々と共に旅行し、共に集會する場合には、種々の形に於ける自己中心の生活を、實に多く目撃致します。勿論是等の事は、他人の爲めに必ず爲さねばならぬといふ義務があるのでは御座いませんから、他人も之れを公然と責むる事も出來ず、自分も亦心に咎めぬのであります。併自己中心の生活を自分一人孤立した生活にはよろしいが、團體的の生活をせねばならぬ人類には、最好ましからぬ者であります。

二

殊に又其生活を能く研究して見ますと、自身の爲めに決して幸福なる結果は得られません。例ば人があつて自分の家族は勿論、朋友でも、知己でも皆自分の利益の爲めにのみ働く者であると考へて居ます時には、他人の行爲は一から十まで氣に入りません。そこで心中常に不平に充ちて、不足のみ並べ、自分勝手の事許り申しますから、朋友も呆れ、知人も厭つて、終には誰も其人に近かぬ様になります。之れは自利的な同情心に乏しい主婦が、婢僕に不人望であつたり、人々の上に立つ人が余り自己中心の生活をなすが爲めに、下の人々に敬遠される實例に照して見ても明かで御座りませう。其故に自分を幸福ならしめんと思へば、先他人を幸福ならしめんと勉めねばなりません。

自分が他人に對して要求する通りの事を、他人も亦自分に對して要求します、故に自分の身と同じ様に他人の身をも思はねばなりません。然るに世には自分は主婦であつて、給料を拂つて婢僕を雇ひ入れた場合に、給料を以て召使の勞力を買つた者であるからとて、自分が手を延ばせば得られる物までも、忙しく働きつゝある召使を故さらに呼んで取らせる事があります。或は年若き者が老いたる僕を無闇に使ひ、壯健な男子が年若かき女中に重き荷物を運ばせる様な事があります。私は曾て或家に逗留して居ました折、其家の來客の重い鞄を十七歳許の女中に命じて、停車場まで運ばせ、主人と來客とは何も持たずに其側に歩んで行きましたのを經驗致しました、私も亦停車場まで見送りに參りましたが、其女中の苦しそうな様子を見兼ねて之を助けました處が、大に主人に叱かられた事があります。併若し之れが客に對する禮ならば、力の強い車夫が運搬夫を雇つて、之を運ばせるがよいではありませんか。客に禮を盡さんとして、之れが爲めに力弱き女中に過度の勞働を強ふるのは實に不合理であります。召使も亦主婦と同じく人類である以上は、其身を大切にして妄りに健康を害してはなりません。主婦は相當の勞働を課するの權利を有して居ても、之れと同時に其健康を保護するの義務があ

ります。主人主婦は何事もせずに、婢僕のみが二人前も三人前もの勞働に從事すべき理由は御座いません。

又人々の上に立つ人でも、自分の困難のみを部下に語つて、少しも部下の困難と勞働とを認めぬ者があります。かゝる人には部下は決して心服致しませんから、其人の事實を益困難に陷ります、自分が卒先して働き、而も先部下の勞を慰むる樣な人は、求めずして人々の信用と尊敬とを得、其事業は成功し、心中常に滿足と喜びとに充たされませう。其故自己を中心とする者は却つて不幸を招ぎ、自己を忘るゝ者を却つて幸福を得る事は、かゝる事實に照しても明かで御座りませう。

三

其故に吾々が生活する目的は自分のみの幸福を得る事では御座いません。人間として有する價値と、其價値に對する責任とを自覺し、自分が爲し得る最上を爲し、爲り得べき最高の者とならんと努むると同時に、常に其周圍に在る吾と同樣な人類に對して、深き同情を注ぐ事であります。自分の幸福のみを目的として齷齪と働く婦人と、其子の幸福の爲めに己を忘れて働く婦人とは、其心情行爲の美しさに如何なる差違がありませうか、又此婦人自身が感ずる幸福にも非常な差が御座いませう。

然るに今一歩進みます時には、吾々は親たり、子たり、主たり、僕たるの關係なき周圍の人々に親切を盡す事を無上の快樂とし、之れを人生の義務と考へる樣になります。社會の風俗、道德の改善進歩は、此精神から來た者でなければ眞の價値は御座いません。形式的に種々の會を設け、其役員は特別事業の爲めに、熱心に働いても、其余の人々は他人に對して何等の感も抱かぬ樣では、社會全體の發達は見られません。凡て物には皆存在の意味があります。吾等人間の存在も亦意味がなくてはなりませんが、物が皆特別の功用を有して居るが如く、私共人間も亦何か役に立たねばなりません。即ち何の形に於ても、何の種類に於ても、自分が此世の中の人々の何かの役に立つ事が出來たならば、此上幸な事はないのであります。何故なれば、之れが即ち吾々が世の中に存在する目的にかなつて居るからで御座います。

多忙の折などには、時とすると「嗚呼かう忙しくては堪まらない、全く小使の樣である」とこぼす事があります。併他人が小使として用ひて下さるといふ事は、何と感謝すべき事で御座いませうか、かゝるつまらぬ身は誰も使つて下さらなくとも致し方がないので、其時は何か役に立つ事はないかと、仕事を求めねばならぬのであります。然るに自求めずして、多くの仕事を他人から與へて下さるならば、無上の幸福とし

て感謝すべきであります。

四

吾々は「禮儀の國」に生れて、尊長に對し、同等に對し、目下の者に對する禮法を學びました。併かゝる禮は個人と個人との間に存する狹い範圍内の禮法、で社會全般、又は團體的の禮法では御座いません。其故に此「禮儀の國」の國民として誇るべき吾等は、不見不識の他人に對しては甚不作法不親切な事が多くあります。蓋し禮儀は正しい心の態度が外に表はれた者でなくてはなりません。誠なき禮禮は虛禮あります。又心に誠があれば自然外に表はれて禮とならざるを得ません。例へば不見不識の他人でも、其人が疲れて居て氣の毒だと感ずれば、自然席を讓る樣になり、日光に射られて暑さうであると感ずれば、自然「ブラインド」を閉づる樣になるのは、普通の感覺と感情を有つて居る人のせずには居られぬ事であります。

其故に吾身の苦痛に思ひ比べて、他人の苦痛に同情し、吾身の希望に思ひ比べて、他人の希望を思ひますれば、他人に親切を盡すべき機會は實に限りなく與へられ、從つて此世に生活する目的は充分に達し得る事が出來ませう。自分が爲した些細の親切に對して、他人の喜ぶのを見る程幸福に感ずる者は御座いません。其故に汗水流してやつと得た金錢は、勞働者に大なる喜びを與へませうが、併かくして得たる大切の金を、將に餓ゑんとする他人の食物に換へたならば、其人の感ずる幸福は實に幾倍を增しませう。

要するに、眞の幸福を得やうと望む者は、自己中心の生活を捨て、吾全力を周圍の人々の幸福の爲めに捧げねばなりません。かくすれば彼等の喜と滿足とは集つて我に無上の幸福を感ぜしむるのみでなく、他人の爲に出來得る丈働くといふ生活の眞義を味ふ事が出來ます。併他人の爲めに働くといふ事は、決して大なる社會事業を起すといふ事では御座いません。日常起る些細の事でも、他人の要求する事、又他人の幸福になるであらうと感じた事は、時間と勞力とを惜まずして、快く之れを爲すといふ意味であります。かゝる人々の多く集つた社會は、道德の最發達した、文明の度の最高い者で御座いませう。

秋は來ぬ、秋は來ぬ
くさきも紅葉するものを
たれかは秋に醉はざらめ
智惠あり顏のさみしさに
君笛を吹けわれは歌はん
（藤村）

思想

輓近女學界の趨勢に就て

宮田脩

近時良妻賢母主義が餘りに高調された結果稍々極端な弊に陥り、家庭に入るや直ちに役立つ可き特殊の技術や智識をのみ習得しようとする女學生が多くなり、加之父兄の希望も亦其方に傾いて來て、學校を卒業すれば直ちに裁縫とか料理とか實地の事のみを要求する。甚だしきになると學校教育では駄目だといふ理由で、學校に入れる事を拒み自己の家庭に於て、直接先生を雇つて實地の練習をさせる父兄もある。

成程之が昔の世の中で、一體の風潮が極めて平穏無事で、家庭の中に格別の苦痛がないと云ふ時代なら、一家の妻としても母としても、其仕事の大部分とも云ふものが大抵裁縫や料理の外に出でなかつたから、實地の妻母で至極結構に間に合つて行つたが、然し今日は全然時勢が變つてゐる。個人の思想も、家庭の狀態も、又は社會の風潮も非常なる推移變遷をなしてをる。之を生活の方から觀察すると、昔時は武士は一定の秩祿があつて總てが食つて行けた。其家柄のものは例へ馬鹿でも或は若年でも元服した男子であれば、規定の祿は默つて貰はれる制度であつた。商人でも以前からの株があれば唯つくねんと店頭に座つて居つても客は來るいふ有樣であつた。其上社會制度が單純で、雇人は雇主の死後と雖も主家の爲めに骨を折ると云ふ有樣故、其家の妻君はそんなに頭腦がなくとも家庭を維持する事が出來て行つた。

處が今日の時世はそんな呑氣な事を夢みてゐられる場合ぢやない。例へば軍人にしても夫のなき跡は多少の扶助料か出るけれども、之で妻子が安樂に暮して行く譯には行かぬ。官吏でも同じ事で、不幸にして夫か死ぬるといふ災難に會へば直ちに生活難に襲はれる。現に某伯爵といふ樣な爵位を持つてる人が、一旦病氣になると可愛そうにもいぶせき詫住居をしなければならぬといふ事情が新聞に見えたのである。此の

人はたま〳〵伯爵といふ肩書がある爲めに新聞種になつたのであるが、斯の如き例は世間に幾らあるか知れないのである。今日は主從の關係も勞役と報酬の關係も全然昔とは觀念が異つておるから、今日の婦人は自巳の腕づくで生活する覺悟がなければならぬ。

社會が時々刻々に復雜になつて來るに從つて生存競爭が激烈になつて來ると、同じ事情の下に生活するにしても、例を擧げて云ふと同額の月給を収つて生活するにしても、其間に自ら競爭が起つて來て、劣者や不適者は淘汰されて仕舞ふのが現今の一般生活の狀態である。昔は大學校を卒業すれば直ちに顯職に就き立派な生活が出來たが、今日は中々そんな譯には行かぬ。教育を受ける人が益々增加し來るのと、先輩が進路を埋めておるのとで就職する事は頗る苦しくなつて來た。まして安樂な生活などは思もよらぬ處である。學生時代の方が却つて樂だつたといふ聲を聞くのも決して無理ならぬ事である。大學の出身者にして尙且つ然りである、それ以下の學校出身者が苦しむのは疑がない處である。

生活狀態が實にかゝる有樣であるのに、年齢其他の關係より妻帶せねばならぬ必要が起つて來る。然し妻子を養ふ資力を得られないといふので此處にまた非常な苦痛が起つて來るのである。此間の消息は教育者の多大の注意を拂はねばならぬ處であろうと思ふ。此問題を捨て顧みなければ社會風教の上は必ずや惡い影響を及ぼす事と信ずる。佛國青年の道德が腐敗しておるといふのも此原因は確かに此邊にある事と思はれる。日本現時の青年德育の問題も此邊の消息を沒却しては中々解決せられぬ事と思ふ。

既に妻帶が必要だといふ場合になつて來ては、從來の不生產的な女子では困難な生活狀態に適當しない。此に於て特殊の技藝を習得して多少にても生活の資を助けようと云ふ處から、實地練習の傾向が來たのであるが、之は一應は尤もな樣であるけれども此處が考へ處である。吾人はよしや一厘一毛の收入をなす事を得ずとも、自巳の生活に安んじて其家庭を適當に處理して行く頭腦と覺悟とを有する女子を要求するのである。手工も必要であらう技藝も必要であらう。然しかくの如き困難なる家庭に飛び込んで處理して行くのに、裁縫や料理や造花が果して何の價値があるであらうか。かくの如き頭腦と覺悟は所謂實地練習よりは斷じて得られない。根本の問題は女子が女子として眞に自覺をなさしむる事である、困難な事狀の裡に立つて毅然として行く人格を造る事である、裁縫と料理のみによつて良妻賢母を作らうとする輓近の學風は、個人の幸福安寧のみならず社會風教の上に與ふる影響は決して喜ばしいものではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之を要するに確固なる土臺が必要である、此土臺の上に柱を据ゑなければならぬ。土臺を固め柱を据ゑるのが高等女學校程度の敎育か分擔すべき責務である。輓近の敎育は搖ける土臺の上に柱も据ゑずに直ちに壁を塗らうとするものである。凡ての根底たる人格を作らずして良妻賢母を得んとするものである、誤謬も亦甚だしいと云はねばならぬ。吾人は人格修養の機關としては高等女學校を措いて他に適當な場處がないと信ずるものである。女子自身も斯くの如き修養が實に社會に對する任務を完全に遂行する唯一の準備と心得、父兄も亦眼前直接の利害にのみ着眼して生涯の方針を誤まらしめないやうにしなければならない。社會風敎に着眼する有志の士も尙此點に多大の注意を拂つて貰ひ度ものである。

（文責在記者）

物を遣る心得

吉野作造

女中に　を遣るなら

成るだけ跡に殘るやうな物を遣れとは、能く奥樣方の仰つしやることです。盆とか歳の暮とかの節季には、纒まつた金高の物を遣るといふは、定まつた慣習でありますが、此場合に、穿き物だとか、石鹸だとか、そんな種類の、いはゞ間もなく使ひ減らすやうな物を遣りますると、無くなつた跡で主人の惠みを忘れる傾があります。衣物だとか、日傘だとか、そんな風な物ですと、何時までも跡に殘りますから、永く主人の恩を感謝します。同じ衣物でも、澤山の平常着よりは少くても晴着、下に隱れる物よりは表に出るものゝ方がよろしい。平常着古くては難有味が薄くなるが、時たま出して着ると難有味が格別でありませう。それも下に隱れてゐては駄目でムいますから、成るたけ表に出して、主人の惠を強く感ずるやうにせねばなりません。斯んな考は、此節の奥樣方の一般の御考のやうであります。

跡に殘るやうな物を遣る

といふことは、もと〳〵決して惡るいことではありません女中などいふものは、兎角目前のことばかり考ふるものでムいまして、御給金を貯めて衣物でも作らうといふ殊勝な心掛の者は少うムいます。御主人にでも拵いて頂かなければ、中々衣物などは出來ませんのみならず。平素物の使ひがぞんざいでムいますから、折角石鹸だとか、油だとか、乃至は下駄足駄を頂戴しても、瞬く間に使ひ減らして仕舞ふのが常であります。有れば却てぞんざいになりますから、之は御主人からやらない方がよいかも知れませぬ。そして乏しい給金の中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から買はした方が本人の爲めかも知れませぬ。斯う考へて見ますと、節季などに、奥様方が跡に殘るやうな物をと御心配下さるのは誠に當を得た處置で、之は大變女中の爲めに都合のよい次第と申さねばなりません、どうせ御金を費うのですから、成るだけ衣物なんぞのやうな物を頂戴さしたいものであります。併し乍ら

女中をして永く自分の恩惠を忘れしめまい

といふ奥様方の御心掛は、甚だよろしくないと思ひます。事柄其自身は、大によろしいが、其根本の心掛は面白くないと思ふのであります。其區別はよく之を辨へて頂きたい。私の主意は、跡に殘るやうなものをやるなといふのではありません。自分の恩を押賣する樣な考で、之をいたしてはよろしうあるまいと申すのであります。同じ事柄でも、善い心掛でいたすと惡い心掛でいたすのとは、大へんに價値の違ふものであります。間違つた心掛で以て致しますと、折角の善い事でも、却つて惡い結果を來すことがあるものでムいます。早い話が頂戴物をした女中にしても

奥様が餘り恩に着せると

却て恩を怨で返すやうの事になります。衣物を頂戴したのは嬉しくないことはありませんが、着る度毎に、之は私が御

前に遣つたのだよと申された日には、嫌になつて仕舞ます。一體人間といふものは、本來隨分慾は深く、貰ふものなら夏も小袖などゝ申しますが、其癖一面には「我」が強く、餘り恩に着せられると、却て不愉快に感ずるものであります。吾々でも、人から衣物でも貰つたとして、其衣物を其人の前で衣て居るのは、餘りいゝ氣持ではありません。女中などは夫程でもありますまいが、度重れば矢張り同じ事です。私の知つてる家の女中に斯んなのがあります。奥樣から嘗て晴衣を頂いたが、餘り奥様の口がうるさいので、奥様の居る面前では決して其衣物を着たことは無い。御留守の時に限り、ソツト出しては喜んで居たといふことであります、之は女中も賞められませんが、奥様の考がもと〳〵間違つて居たから起つたことであると思ひます。

一體或る事柄が恩惠になるか

否かは局外の第三者が觀て定むべきことであります。本人自らが、人に恩惠を施すといふことを意識して居るやうでは、本當の恩惠ではありません。本人は何といふ考もなくしてやつたことを、外の人が見て恩惠といふべきものであります。それを自ら恩惠を施すといふ考で致すのでありますから、其恩惠が相手に徹底しないのも無理はありません。況んや。其恩惠を永く忘れしめまいと心を配り、且つ事毎に相手

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をして自己の恩恵を思ひ起させんと努むるに至つては、沙汰の限りといはねばなりません。自己の恩恵に對して、先方から感謝されたいといふやうな心は、どうか吾等の心中より取り去りたいものであります。自己の恩恵を永く忘れしめまいといふやうな考が少しでもありますならば、吾等は之をも速に取り去りたい。否寧ろ一歩を進めまして、恩恵といふ考そのものすら、奇麗に忘れたいものであります。

之は前と少し話は違ひますが

矢張り恩恵といふことに關連しますから申します。之は女中のことではありません。或る奥様の不謹愼な一言の爲めに、御亭主と其御友達との仲違をしたといふ話であります私の知人に、甲といふ方があります。其人の友達にまた乙といふ人があります。此人は甲といふ方から大變厄介になつて、近頃漸く世間に顔を出した人であります。乙氏は生來苦勞をしただけに、少し頑固な負けぬ氣のある、人に頭を下げることは大嫌の質です。腹の中では甲氏の恩を思はぬではありませんが、面と向つて餘り有りがたいといふやうな顔もいたしません。併し甲氏は、親友の間柄とて、別に意に介しませんでしたが甲氏の御家族特に御夫人は中々、我慢が出來ず、平常乙氏の態度を失禮だと思つて居りました。或る時フトしたことから、甲夫人はこの平素の不平を某夫人に口外しましたが、之がどう傳つたものやら、乙氏の耳に這入つて、大變立腹し、甲といふ奴は少しばかりの恩を笠に着て、我輩の顔をつぶすといふ怪しからぬ人間だといふので、之が元で、甲乙二氏の反感情となり、遂に二氏は絶交の姿となりました。之には勿

論乙氏に責むべき點は大にあります。

一飯の恩といへどもびろべからず

といふが、守るべき人の道であります。自分の今日あるに至つた所以は、其一飯の恩も、微小ながら其要素をなして居るに違ない。之を無視するといふは、甚だよろしくないと思ひます。どうも吾々には、自分の今日ある所以を、自分一人の効に歸したがる癖があります。他人の助けによらなくとも、之れ丈の腕は本來備つてゐるんだと、力んで見たがるのであります。必竟するに、一種の驕慢です。此驕慢心は誰にもある。此心がありますと、他人から助けられて今日あるに至つたといふ意識は、到底堪られないのであります。だから强て此意識を殺して、他人の助力や他人の恩儀などは、屁とも思はないやうな態度を取るに至るのであります。斯の如きは、凡夫の常とはいひながら、甚だ怪しからぬ所業といはねばなりません。我等は斷じて斯んな態度に出でゝはなりません。併し之は之として、恩を施した側に立ち返つて見ると、此方ではまた、

餘りに其恩惠の價値を過大に視て居る嫌

があると思ひます。彼等は、相手方の今日あるに至つたのは、自己の施した恩惠の結果だと申してゐます。若し自分が助力しなかつたならば、相手方は今日の位置には進んで居なかつたであらう。自分が助けたればこそ、彼は今日あるを得たのであるなどゝ申します。丸で自分の施した恩惠が、相手方の成功の唯一の原因であるかの樣に申すのであります。斯う出られては、相手方も快くは感じますまい。一體物事を公平に見て申すと、他人から助力を受けたといふことは、人の成功の上に、左したる大要件をなして居るものでは無いと思ひます、例へば學生などでありますと、他所から學資を借りたとか、或は飯を食はして貰つたとかいふ例は幾らもありますが、成程學資も借りられず、飯を食はして與れる所もなかつたら、勉强は出來なかつたかも知れませんが、併し今日目出度卒業して立派に一人前の人間になつたといふことの、第一の要素は何かと申したら、取も直さず、其人の能力であると申さねばなりますまい。其他商賣をするに資金を借りたといふやうな場合にしても、其成功の大元の要素は、矢張り其人の腕であると申さねばなりません。學資だとか資本金だとか、何れも缺くべからざる要素でありますが、其人固有の「力」に較べますると、即ち成功といふことに、一小部分の貢獻をして居るに過ぎぬものであります。それを唯一の原因であるかの如く吹聽し、今日の成功は皆己れの御蔭だと思ふのは、大なる誤であります。此點に於て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甲夫人は誤つたのであります。斯ういふ誤つた考は、御婦人に限らず、男子の方にも隨分多いのでありますが、男子は斯んな事に餘り屈托いたしませんから、よし腹でどう思つて居ようと、口に出すことは少いのですが、御婦人は比較的に神經質でありますから、動もすると我慢し切れずに、口に出すことになるやうに思はれます。自分の不謹愼の一言で、主人と友人との仲違ひを來したといふやうな事になつては、獨り主人に對して面目無いばかりでなく、世間に對しても耻づべきことと思ひます。之と云ふも、畢竟するところ、恩惠といふことの根本の考の誤つてゐる所から起ることであります。折角人に恩儀を施して居ながら、却て人さまから憎み嫌はれるといふのは、つまらぬ話ではありませんか。夫れも只憎み嫌ふ向ふの人が惡るいといふに止る事であれば、まだ我慢も出來ますが能く／＼考て居ると、つまりは自分の德の足らないことに歸するのでありますから、我等は十分之等の方面に修養する必要があると思ひます。

妾の過去

矢島楫子

私の育ちましたのは何しろ、嘉永安政など申す時分の事で御座いますから、世間はそろ／＼騷がしくなつてやれオロシヤが蝦夷に來た、やれ英吉利の船が長崎に來た。なぞと永い眠が覺まされて人の目が漸く海の方に向け初められました時で御座います、それで黑船が浦賀に來ましてからは何處でもそうでしやうがわけて九州なぞでは御手當、御手當と申しましてね、武士の家では色々戰の用意を致しました。又平民でも十兩獻上すれば二字十五兩以上なれば名字帶刀を許されると云ふ譯で御座いました。そう云ふ時勢の中で御座いますから忠義をしろ孝行をしろとは人も敎へ自分もせなければならん事とは思つては居りましたが、偖てそれなら孝行はどうすれば善いか、忠義はどうすれば善いか、と云ふ段になりますと茫然して一向分りません。九州では御存知の通り天草の騷動があつて切利支丹禁制でありましたから、臣民の第一の忠義は外道佛を踏む事でした(繪踏の事なり)。ですから耶蘇所か耶蘇の耶の字でも口にしやうものなら忽ち何の某は切利支丹じや邪宗門じやと云ふので、掛りの御調べを受けなければなりません。私の藩などでも(氏は熊本の生れにて細川侯の

落なり）正月には大勢の人を御役所に集めて、何の某、と大きな聲で順々に喚び入れ嚴かな顔をした役人の居列ぶ中で調べるのした。而してそれが濟むと裏門から出されるのですが私も幼い時に小供心に物珍しく、こつそり垣根の外から覗いた事のあるのを覺ゐて居ります。

それから又女は容易に外へ出る事が出來ませんで、僅に一日と十五日に御寺へ行つて、御詣をする位が高々でありましたから世間の樣子は分りませんし敎と申す樣な事もありませんでした。そんな具合で何が何やら分らず闇の樣に暮らして居りましたのが偶然とした事から光を見る樣になりました。それは明治五年の事で其頃東京に參つて居つた兄が大病の時で御座いました。兄は心配をさせまいとでも思つたのでしやう、百日も床に就いて居つたのだそうですが故郷へは何とも云つてよこさずに居りましたのを人傳に聞き知りまして吃驚し取るものも取り敢ゐず看護に參りました。そして兄の側に居ります中に段々世の中が幾分分つて參りましたし學問をしたいと云ふ考も起りました、すると或日の事兄の友達で木下さんと云ふ方が見ゐまして私に貴女は、これから敎員養成所へ御入りなつては如何ですと云ふから、そう云ふ事が私共に出來ましやうかと申したら、出來ますとも、貴女なら大丈夫と受合れますので危み乍らも遣つて見る氣になりまして結局

其處へ入りました。入つて教師から話を聞きます中此迄は板の樣なものとばかり思つて居りました地が丸いものだと云ふことや見も聞もせなかつた外國の事も分ると云ふ譯で學問をする事が面白くなりました。そうなると學問の欲が出ましてこれから一つ英語を習つて見ましやうと、恁う思つて三十間堀のカルドルスと云ふ宣敎師を訪ねました。すると其處に唯今女子大學の敎授をなさつて居ります彼の戸川安宅さんが御出になられて貴女は幾歳に御なりなさると問ひますから最早四十で御座います、と答へると、それじや英語は御廢しなさい、飜譯が幾多もありますから、それを讀めば濟みますと云つて色々忠告して下さいました。けれど出來ないと不自由だと思ひまして其年になつてから少しばかり勉强しました。こんな風で宣敎師には就きましたもの〻、目的は全く英語を習ふ爲で基督の敎を學ぶ爲では御座いませんでした。これは三年ばかり後で聞いた話ですが私がカルドルスに逢ひました時の樣子を見て氣の毒に思つたのでしやう。私の後姿を見ゐなくなる迄凝視ながら彼の人を導き給へと云つて一心不亂に祈つて下された方が御座います。その方は出口栞子と云ふ婦人の傳道師です。其出口さんが私が道に入りました時此話をして下さいましたから、出口さん、どうぞこれからも祈つて下さい、私はまだまだ眞實の信仰にはなれませんと云つて將來

の事も御願ひ致しました。山口さんは多分それから後も祈つて下されたでしやう。それですが惜しいことに昨年なくなりました。かやうな譯で此の年になります迄には色々の目にもあひましたが、私は別に何も不平は御座いません、唯其の日〳〵の務を果して參ります事が一番大切と心得て居ります。それですから夫が酒を飲みました折にはどうしたら機嫌善く酒を飲ませる事が出來るかと思ひまして、色々苦心しました。或時などは夫に勸める計りで自分で飮まないからいけないのかも知れないと存じまして自分も習ふ積りで飮まうとしましたが何分にも苦しくて出來ませんしそれに酒は毒だと云ふ話も聞きましたから、それ丈は致さずに廢した事がありました。こんな事を申上げると可笑しく思ひなさるでしやうが敎の標準の無かつた私共は恁う云ふ事もしたのだと思召し下されば澤山で御座います。併し前申しました樣な譯で聖書に親む事が出來るやうになりまして今では毎朝少しづゝ讀んで居りますが自分に取つて此敎に入つたのが何より幸と存じて居ります。皆さんもどうか精出して聖書を御讀みなさい、さうすれば迷ふ時にも考へる時にも神の敎があるに違ひありません。私は舊約聖書は餘り讀みませんですがイザヤ書の四十章二十五節以下の所は自分に取つて忘れやうとしても忘れられない有り難い言葉で御座います。

姉樣へ

今日は彼岸のお中日、ばあやが萩の餅をこしらへてくれましたから、お重に入れてお祖母さんの處へ持つてまゐりました。二軒茶屋を右に折れると美しい並木道で、漏れて來る秋の日が背に當つて氣持がいゝつたらありません。道祖樣の處の掛茶屋で柿だの栗だの澤山ならべておきました、お母さんのゐらつしやる頃は、屹度此處で休みましたつけれ、それ何時でしたか、矢張りおばあさんのとこへ行く時でした、喉が渇いたと云つたら、裏の瀨戸にきれいな淸水が湧いてゐますと茶屋の人が敎へてくれたので、飮まうとしたら、汚ならしい破れたお椀が一つ水にういておりました。まアお待ちとお椀をさらうとした妾の手を止めて、お母さんは大きな笹の葉を三つに折つて、之でおのみとお仰つた事がありました。山路で笹の葉は何だか恐かつた妾でしたが、それからは奬しい、なつかしいものとなりました。其お母さんはあの世、あなたは都に、わたし許り秋の野に立つて寂しい風に吹かれてゐます。おばーさんは妾の顏を見るとすぐお泣になつて、お母さんが生きてゐたら〳〵と、それ許り繰り返してゐらつしやる。祖母樣は妾共を可愛相だとお仰るけれど、わたしは又祖母樣の方がもつとお可愛相だと思ひます。死ぬなんてどんな事か知らないけれど、生きてさへゐれば皆なが樂しく暮されるのを、姉さん、死ぬなんてお母さんが惡いと思ひますわ。

午後からは祖母樣と山のお寺にお墓詣を致さうと思ひます、あなたの好きな菊の花を供へますよ、歸りには方丈樣を訪れて御談義を聽いてくると祖母樣はお仰るけれど、妾はあの坊樣は嫌だから、其ひまに栗を拾つたり、初茸を採つたり一人で遊んで來ます。澤山とれたら、姉さん、贈つて上げませうか。左樣なら。（妹より）

家庭

家庭教育觀察の一二

安井哲

吾國は「子供の樂土」であるとは、西洋人の誰も許して感心する所であります。實に親が其子を愛し、國民一般が兒童を愛する事の深いのは、恐らく吾國に如く者は御座いますまい。併しながら一方に於ては、餘り自由である爲めに、子供でも守るべき事は必守るといふ良い習慣のついて居らぬ兒童を見受ける事が往々あります。

身體も小さく、僅に歩ける位の幼兒でも、其意志を通そうとする時には、親も乳母も之れに打勝つ事の出來ぬ場合があります。況して三四歳以上から、幼稚園や小學校に行く年齡の兒童には、中々母親の制御し難い者のあるのを見受けます。

子供を餘り愛する爲めに、又は自由を與へんとするが爲めに、將來子供の害となる樣な習慣を養ふ事は、何も知らぬ可憐の子供の爲めには實に不幸であります。私は子供が非常に好きでありますから、子供のお友達を有つて居ますが、時々是等の子供の爲めに害となるであらうと感ずる事を、母親がせらるゝのを觀察致しますので、可愛お友達の爲めに其一二を次に述べて見ませう。

一　不規律の習慣

西洋人は子供の時から、規則正しい習慣の中に育つて居ます。即家庭でも、學校でも、社會でも大體に於て食事の時間や、睡眠の時間、勞働の時間や休息の時間等が、能く規律正しく定められて居ますから、幼兒でも時も定めず飲食したり、睡眠したりする樣な事は御座いません。然るに日本では大人でも規則を守らぬ人が多くありますから、子供が食物をねだれば、時間にかまはず之れを與へ、偶制する事があつても、泣き出されると、之れに恐れて直に兒童の意志に從ふといふ樣になります。又睡眠時間でも其通りで、客來でもある時には、其饗應の席に出だして、眠るべき時間が來ても就寢せしめぬ事があります。時とすると外國住居をして居られる方々でも、此點に於ては、其土地の良習慣を破られる事のあるのを目擊致します。

子供は未是非善惡を判斷し、之れを取捨する力を有たぬ者でありますから、成長の後吾良心の命令に絕對的服從をする事の出來る樣に、幼少の場合に於て、兩親を初め年長者の命令に服從する習慣を養はれねばなりません。其故に兩親は其子の爲めに、如何なる習慣を養はんかを熟考して、其兒童將來の爲めに利益であると思つた事は、必之れを斷行せしめねばなりません。勿論兒童は慾に富んで居ますから、假令信じて居る親から、制止されても、眼前の食物を食べたいと思ひ、面白そうに見ゆる物は、危險であつても觸れて見たいと思ふのは、自然の情であ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。其故に兒童に良き習慣をつけ樣と思はるゝ母親は、能く兒童の精神上の働きを研究して、成るべく制止のみを用ひずに、善良なる傾をつける事は工夫せねばなりません。今其注意の一二を擧げて見ますと。

（イ）良き習慣を破る樣な境遇に兒童を置かぬ事が肝要であります。例ば兒童の食事時間外に、妄りに食物を見せ、又は一時の興味を與ふる爲めに、弄ぶべからざる物を弄ばしむるなどは、親が其子に誘惑物を與へるのであつて、之れを慾望しても制する事は出來ぬ理でをります。又睡眠すべき時間に子供を來客の前に出して精神を靜める代りに、神經を興奮させ、甚しきは就褥前來客に饗した菓子や果物などを食べさせるのは、實に不衞生な習慣を與ふる者であります。西洋では家庭内の規律が正しい故に、來客の爲めに決して子供の訓練習慣等が亂される事は御座いません。

（ロ）兒童の注意を有益なる事物に轉ぜしむる事。

萬一兒童が妄りに食物を望み、又は危險なる遊を好んで止みません時には、巧に兒童の注意を他の興味ある事に向け換へるのが良策であります。例ば靜な場處に連れて行つて、其注意を動物や植物に向け換へるとか、又は面白い談話でもして、其中に興味を見出さしむるとか、有害な慾望を自然に他に轉ずる樣に試みるのであります。然るに或母親はかゝる事をするのを面倒とし、無闇に子供を叱かるが、召使に子供を托するかして、かゝる肝心な機會を良き方に利用する事を勉めません。子供の爲めには實に悲しむべき事であります。

二　婢僕を輕蔑する事

吾國では上下の別が正しく、下は能く上を尊敬し、禮儀正しく尊長に對する良き習慣があります。外國人が日本の下流の婦人を評して、實に行儀の良い叮嚀な人々であると申しますのは全く事實で御座います。かく禮儀正しい婢僕は主人の子供に對しても、亦禮儀正しく事へますから、兒童は其召使に對しては、主人を氣取り、言葉遣ひから、取扱から上位にある者の如くに致します。之れは兒童には最良くない事で、之れより來る害が種々あります。

（イ）傲慢の風を養ふ。

傲慢な者は進歩發達する事が出來ません。然るに多くの未來を有する兒童が、多くの發達を爲すべき運命にありながら、既に此世に於て數十年の經驗を有つて居る者に對して、傲慢不遜の態度を取りますならば、到底學習の狀態に居る事は出來ません。かやうに傲慢に育つた兒童は、中學時代又は高等女學校時代になつて、何の恐るゝ者もなく、何の仰ぎ見る者もなく、終には不良なる少年少女となり終るのであります。私共は一生を通じて何等かの制裁を受けねばなりません。其故服從すべき事には、直に服從するといふ習慣を有する事は、實に其人一生の幸福であります。

婢僕は一時的の關係に於ては、自分の下に位する人々ではありますが、經驗上に於て又時としては學問上に於て、子供より遙に勝つて居る者であります。殊に一家内に起居を共にする者でありますから、家人と同樣に能く親切に取扱ひ、不必要な勞働を强ひ、又は彼等に對して輕蔑的の言語擧動等を用ふる事を愼んで避

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けねばなりません。勿論彼等に對する子供の態度は、兩親が彼等に對する心情如何に依つて定めらるゝ者でありますから、吾子に美しい習慣を養はんと希望せらるゝ親は、自婢僕に對して深き同情と親切とを有たねばなりません。

（ロ）婢僕の忠告に從はず。

我國の婢僕を其主人の子供に對しては、實に忍耐強く、我儘な子供にも能く叮嚀な言葉を用ひて、反復忠告致しますが、兒童は中々之れに服從せぬのを見受けます。之れは兒童に善良な習慣を養ふ上に非常な害があるのみか、表裏の言行を爲す事を習ふ端緒となります。即兩親の前では能く命を奉じ、婢僕の前では同一の事でも實行せぬといふ、道德上最恐るべき不誠實な習慣を養はれます。

西洋では婢僕でも、主人の子供の名を呼び捨てにし、兩親の前で叱りもし、時には打つこともあります。かくして兩親も婢僕も同様に、爲すべき事は必爲さしめ、爲すべからざる事は之れを嚴禁します。其故に子供は兩親と婢僕とが自分の上に有する權力の差異を餘り多く見出しませんから、能く守るべき習慣を守ります。

私は母親が若熱心に其子を教育しやうと望まれるならば、其婢僕も幾分か教育もあり又常識もある者を雇ひ、兒童の爲めに一種の威嚴を有つ事を許さねばならぬと思ひます。曾て私の知つて居る英國の醫者が、其幼兒の爲めに年若き媬姆を雇ふのに、第一の條件として、兒童を訓練し得る威嚴を有した者で、單に子供の遊び相手でない者を得たいといつて居られましたが、此人こそ實に其子を愛し其將來を思ふ者であると感じました。

そこで私の切望する所は、吾國の兒童をして、此幸福なる樂土に生れ出でたる事を感謝し、萬人の愛を一身に集めて、自由を樂しましめるのはよろしう御座いますが、併其自由の中に健全なる制裁を見出し、將來の幸福の爲めには我儘勝手を抑制する丈の窮屈を感じさせたいのであります。自分を氣儘にさせる兩親や婢僕は已れを愛する者であつて、已れに制裁を加へる者は己に不親切な者であるといふ誤解を抱かぬ様に、兩親も教師も他人も婢僕も眞に兒童を愛する故に、彼等をして惡しき習慣より救ひ出さうと熱心に希望して居るのであるといふ事を知らしめ、年長者の教訓命令には絶對的に服從する様な習慣を養はねばなりません。

子女教育に對する母の務

海老名みや子

近比大勢の子女を有つて、教養に全力を注いで居られる二三の奥様方に出會致しまして、いろ／＼其教育の方法やお子様方に對すの御感想を伺ひました。どなたも／＼よほど御苦心の御様子でありまして今時の子供は仲々親の云ふ事をきかない、あまりやかましく云ふと反抗するほうつて置けば我儘になる、どふいふ工合に教へたものでありましやうと歎聲をもらされました。それで、自身等の幼い時の事をたどり／＼考へて見ますと私共もやはり母や祖母に今時の子供はと數々云はれた様に記臆致します。して見ると、親として子供の心を推知し、子として親の心を滿足させる事は、今もむかしも六ケしい事であるかと察せられます。

こゝ四五年程男女青年の思想の變動の甚しい事はありますまい。日夜注意に注意を加へて、成べく後れを取らぬ樣心がけて居りました積りですのに、此比ははるかにふりすてられて、殆ど見當がつかなくなつた樣に感じます。俗にいふ時代時節で、廿世記の人が十九世記の人の通りにあらう筈は勿論ありません。何から何まで此過渡時代に生れ合せた子供等は、特別な其感化を蒙るといふ事は無理からぬ事でありますが、あまりに親と子の思想が隔りまして、親の心子知らず、子の思親覺らずといふ樣になりましては、世にこんな淺ましい悲しい事はなからうと思ひます。かゝる例は近比しば〳〵見きゝする事でありましてつひ近比も世に隱れた年若い文士が、其心事を親に知られずして誤解に誤解を重ねて僅かに二三の友人に其切ない思を托して此世を辭し去られました。其慈母は終りに至るまで我子の心を會得せず、其無限の愛情をそゝぎ得ずして冷き土中に葬つて仕舞ました。何んと悲慘な事實ではありませんか、これは親の罪か子の罪か時代の罪か皆各々其一部を負はねばなりませんが親たるものは其大部分を負はなければなるまいと考へます。我子よかれと希はぬ親はありませぬが、子の爲に勞苦を厭はず、自らを盡す親もさう澤山はないではありますまいか。世に道樂者や不幸者が出來ますのは多くは其罪を親たるものが受けねばならない樣に感ぜられます。さらば私共親として如何に子供を教育すべきかといふ事は最大の問題でありまして能く研究しなければならないと存じます。それで先づ私は自身が實驗致た事にそへてかくあり度と希ふふしを何くれと無遠慮に申上まして御參考に供しますから皆樣の御意見も充分に承り度と思ます。これを胎育時代、幼年時代、少年時代、青年時代の四つに分て研究する事に致しましやう。

胎育時代

親として子に對する第一の務は、立派なる素質を與へるといふ事でありましやう。即ち健全な體と靈とを産みつけるといふ事であります。浴に氏より育ちと申ますが、これは育ちより氏といふ方が當つては居りますまいか。其素質がよくない時はどんなによい境遇におき善良な教育を授けましも其効を見る事が出來ません。長するに從ひ、以て生れた惡質がはびこつて、終に如何共爲し難い人物になり終る事は、間々ある例であります。身體とても其通りで双親の強健なる體質をうけて來た子供は、外界の障碍はものともせず、ずん〳〵生長致しますが、これに反して虛弱な體質をうけて來たものは些少の風雨とも得たへで、もろくもたをれてしまひます。又こんな虛弱の子を養育する親の骨折は、一通りではありません。この樣に靈の上にも、肉の上も、よしあし共に、双親の質をうけて來るものであるとすれば、何んと恐ろしい事ではありませんか。それで私共懷妊中は

どんな心の狀態

をもつて行く樣に心がく可きでありましやうか。むかしの人は眼に惡色を見ず、耳に惡聲をきかずと申て愼みましたが、私共は其見ざるきかざる主義でなく進んで善い事を見よい事をきく主義でなければいけないと思ひます。ナポレオンの母は英雄傳を讀んで大英雄を産みました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヘブルの女等は我こそはキリストの母たるの榮を得んものと熱烈な希望を懐て居りましたされぱこそかの國にキリストもお産れになりましたらう。

自分は楠正成を産みたい、太閤秀吉を産みたい、ルーテルやオーガステンの樣な大宗敎家を産みたい、ナイチンゲールの樣な博愛慈善の女丈夫を産みたいと希ひましたればとて、あながち非望と申ではありません。私は凡そ女の願望の中で、この位高尙で美しい願望はなからうと思ひます。俗に棒程望んで針程かなふと云ふではありませんか。よほど熱烈に希ひませんでは我々凡人が非凡の人物を産み出す事がどふして出來ましやう。見ざるきかざる主義では、順境の時はそれでもすみますが、一度逆境に出會致しては、忽ち弱つてしまひます。世の荒波は用捨もなく身邊にうつて參ります。妊身中は何と申ても平常より神經過敏にもの事に感じ安くなつて居りますからかゝる時にかねての修養と用意がなくては、身も心も千々に碎かれてしまひます。そこは幸に私共信仰の生活に入つて居るものは、安らかに勝ち得る事が出來ます。神は必ず我が爲に道を開き玉ふ事を信じて勇ましく其事にむかつて奮闘致します時々たへ難い苦痛も苦痛と思はず、打勝つ事が出來ます。信仰なきものが其逆境に出あつて如何なる荒波もうたばうてと、身をすてばちの奮闘とは大變な違ひであります。故に胎兒に惡しき影響を與へる事は少しもないと思ひます。これに付ては私も聊か經驗致しました。四人の子供の中、二人は妊身中先づ平安無事でありましたが、他の二兒の妊身中には、おもはぬ炎難に出あつて、非常な苦心を致しました。其爲に七八ケ月の重きからだを電車にものり、車にものつて危險な事を致しました。其事を能く御存じの方は滿足な子供が生れゝばよいがと心配された位でありました。然るに何の障りも受けませんで、誠にいつもより尙安々と、産む事が出來たのみならず、其子の性質も、今の處どうやら他の子供より却て多方面で、面白く出來ては居ないかと思はれます。これは全く私の樣なものでも、かねての信仰の力によつて奮闘し勝ち得たものであると感謝して居ります。順境にあつて安逸に流れ逆境に處して戰にまける樣では決して胎兒によい感化は與へられまいと思ひます。この時は恰も戰場にむかへる勇士の樣に勇ましくあり度いものであります次は妊身中

如何に身體を扱ふべきか

といふ事に付て述べて見度と思ひます。專門家でない私が、所謂素人考で、聊かも身の實驗によつて得た處の事を申て見ますから、違つた處はおきゝ捨てに願ます。

先づ初めに懷妊は天然の理法に適つた自然の作用きでありまして、決して病氣ではない。故に、特別の事情さへなければ、醫者の助けも藥もいらないと、心得て居る事は大切だと思ひます。姙身して二ケ月目位から四ケ月の初め位まで、勿論人々によつて多少違ひますが、俗につわりと申て、重に食物にいろ／＼の嗜調を生して參ります。常に好きなものが嫌ひになつたり、嫌ひなものが好きになつたり、或人は何もかもいやになつてうどん丈けたべられるといつて、二ケ月間うどんで通した人もあります。お茶がきらひになつて、お茶を見ると胸が一ぱ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いになるといふ人もあります。こんな風に、いろ／＼の變動を生じて參りまして何となく氣持が悪くて、初めての人は病氣ではあるまいかと、乍ち心配をして、醫者よ藥よと騒ぎ度なりますが、どんな名醫でもこればかりは仕方がありません。それで少しこんな變調が來ましたら、或は妊身ではあるまいかと氣を落付て、一二週間様子を見て居りますと、其變調は依然として續いて、益々著しくなるかも知れません。なつたら母なり姉なり自分より年長者の實驗ある婦人に尋ねて見ますと、大てい鑑定はつきます。先づそうと定りましたら、どんなに氣分が悪いと申ても、寝たり起きたり身體を不精にしてはいけません。こゝはむかしのお姑さんがお嫁さんにやかましく申た處でありますが、やはりこんな時には決してねころんではいけません。つとめて平常の仕事をとり身心共に活潑にして居りますと却て凌ぎよいものであります。食物は滋食に富んて、消化し安いものとゝ衛生法に定つた事でありますが不思議なもので姙身中は自分の好むものが一番消化致します。ある方は最も不消化な天ぷらやお團子やお汁子やうなぎめしといふ様な重くるしいもの斗り好むで多量にそれらを食されても驚く様よく消化致ます。しかしそんな方は少し風變りで、多くはすつぱいあつさりしたものを好む様になります。どちらに致せ好むものは量を過さないかぎりなんでも食してよいと思ひます。尤も酒類辛し類すべて刺激物は全く禁じなければいけないと思ひます。かれこれ三ケ月もたちますと、大てい平生に復します。其後は身がだん／＼重くなりますから、これからは身を可成強く、活潑にまめに動かすのが肝心です。これは安産の秘訣だと思ひます。が、こゝに注意しなければならない事は、其人のかねての習慣を元としてあまりそれに飛はずれた行動のない様にしなければなりません。が豫て勞働になれた人と、お箸か筆の外重いものをもつた事はないといふ人とは、自ら扱ひが違ふ筈です。そこはお極りの衛生方を杓子定規にせず、活用して我身にあてはめる事が肝心です。追々に身の重みの加ふるにつれ其責任が増しつゝある事を自覺せねばなりません。實に懐妊は婦人の名譽ある大役でしかも無上の光榮だと思ひます。

こゝに皆様に改めてお願ひ致しますが、私が此胎育時代より青年時代迄の子女に對する母親のつとめを書て見度さ思び立ちて見ましたが、自

ら頒れば固より考も未熟で聊かの淺薄な實驗で自分ながら不滿足に感ずるふしのみであります。それに限りある紙數でありますから細い事に亘つては到底書き盡すはけには參りません。それで大切だと思ふ事は特に問を設けて廣く皆樣の御實驗を伺ひ度と思ひます。今日もこゝに左の三問を出して置きますから次號に間に合ふ樣十月十五日までに御答を戴き度と思ひます

一　妊身中非常の出來事又は烈しき苦心の爲に胎兒に及ぼした影響

二　惡阻の重い人は如何樣にして其期を過ざるゝか

三　生れんとする嬰兒の爲に用意さるべき衣服、襁褓、に付て

流行せる腦脊推膜炎の話

金子魁一

流行病といへば何れも恐しい病のみであつて、急に人體を襲うて來て短日月の中に生命を奪ふ樣なものが多い。それであるから衛生思想の發達してなかつた昔は、一度流行病が發生すると實に猛烈なる勢を以て傳染し慘憺たる結果を殘したのである。大概の流行病は季節の變り目に多く、夏より秋、秋より冬、冬より春、といふ樣に移り行く時がその暴威を振ふ樣である。

昨今、流行性腦脊推膜炎が都下に流行して居るから一言して見ようと思ふ。是は隨分恐るべき病で、患者の多數は死を免かるゝは六かしい。幸ひ病は癒つても手足が普通の樣に利かなくなつたり腦の官能は害されて恰も白痴の樣になつたり、又は盲人となつて仕舞ふなどといふのは、能く世間に見る所である。ペストやコレラは免役性を有つて居るから一度それらの病を經過すれば二度は罹らないといふ事になつて居るが、此流行性腦脊推膜炎は此性質を有つて居らない。扨てどんな風に始まつて來るかといふと、初め何となく氣分惡く吐氣があつたり頭痛がしたりして食慾も減じ少しの仕事にも堪ねない、二三日も過ると、急に惡寒を催し之れに踵いで體溫が昇りて三十九度或はそれ以上にも達する、頭痛は益々烈しくなり、意識は漸々に障害せられて朦朧となり譫言を言ひ時々大聲で叫ぶ樣なこともある。

同時に注意すべきは項部が強くなつて頸は眞直になり曲ぐることも出來なくなる事がある、是は腦膜炎には殆ど必ずある徴候といふても差支ない位である。脊推は甚しく過敏になり之れを壓しても激しく痛む樣になり、腹部は舟の樣な形になる、上肢や下脚には強直性痙攣が起り、患者は意識全く亡失するに至る。多數の患者は一週の末二週日位に腦痲痺か心臟痲痺で死ぬる樣である。かくて幸に本復しても前にも言ふた通り不具者となり了はる。實に恐るべき病である。

本病の流行は、大概其の區域一地方に限局するものであつて多人數の集り合ふて居る所即ち兵營、工場などに發する事多く、或は或町内のみに限りて流行することもある、傳染病とはいへども、ペスト、コレラなどに比べると、左程傳染の危險は少ない。但し生命に對する危險の度合は是等の病に劣ない、特に本病は小兒を襲ふことが多い、だから小兒の感冒をひいた時は早く見て貰ふがよろしい。若し不幸に病人が出來たならば、患者を隔離し其の衣服や居間を消毒する必要がある、療法は種々あれども、何れも醫師の監督を要する故省く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

うたかたの記

松井とも子

眞夏照る日の餘りに激しかりし爲めわれは親しき二人の友を失ひぬ、あはれ永刼再び相見るを得ざるべきか。七月十一日酒匂常明の君は果無き最後を遂げ給ひて濡れし袂の未だ乾きもやらぬに、われは稚き喜美子を抱きて大學の小兒科病院に入りしが、越ゑて八月六日意外にも齋藤野の人の訃音に接しぬ。喜美子の病はいと重く熱は常に四十度を上下して夢に泣き、現に笑みて他愛もなきに、われは夜も晝も只其顏のみ打ち守らる。靑蚊帳にさし込む電燈の光も病める子には、餘りに映げにて何とはなく心くるしく、寢られぬまゝに聞くともなく耳を傾くれば其處此處の病室に稚兒の泣く聲、病になやむ苦しげなる呻き、廊下ふむ看護婦の足音、氷くだく槌の響、いづれも身にしみて哀れに覺ゑぬ。

酒匂ぬしとは鄕を同うし入佐山の山陰に共に幼き日を過しき、無邪氣なる君は二つ三つ姉なるわれを誘ひて柚の實など、ちぎりに行きしこともありき。母君の機を織りつゝ、よく遊びてよなど宣へば仲よく半紙に繪など書きて遊びしこともありき。されど君は決して女々しき人にはならざりき。母君はいたく愛しみ給ひて廢藩の後、彼の君と舍弟の君とを伴ひ、住み馴れし家をも棄てゝ物學びに便りよしと豐岡に移り住み給ひしが、其頃君は十二三とも覺ゑき、久しからずして東都に學び農科大學に入り給ひしが故鄕に居ます母君は遂に君の卒業をも待たで身罷り給ひぬ。其折の君の嘆きや如何なりけん側の見る目も堪へ難き程なりき。君が此度の自殺に就いて其の善惡は問はずもあれ、心の淸く高く雄々しき君は國の爲人の爲、わが一身を犧牲にさゝげ給ひしなり。あはれキリスト逝きて世の人は生きぬ、此誠實なる友の死によりて我も生きなん、人も生きなん。ア、彼の君の切なる心底のおしはかられて云ひ知れぬ悲しみに沈むぞ是非もなき。

齋藤野の人、ア、君は誠になづかしの友なりき、齡未だ若うして、身罷り給ひき。思へば君を知りしは八年の昔、令兄樗牛博士の遺骨をかの龍華寺に葬り給ふ日なりき。鎌倉長谷の御住居より大町なるわが庵を訪れ給ひしは冬の日の風いと烈しき日なりき。御顏の氣色餘りに勝れさせ給はざりしかば返て君の上なほ案じまつられぬ。風稍々靜まりて田中上人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を訪はんとては行き給ひしが歸るさに白梅一枝持ち給ひて、兄君に手向けばやと寂しげに、ほゝゑみ給ひし御心の奥のしのばれて云ひ知らぬ涙にむせびぬ。其折は未だ學生にておはせしが、われは其前の年秀雄を失ひて、何とはなして同じ憂の友とはなりぬ。

野の人はたゞ夢の人にはあらざりき、荒野の原に「主の道を直くせよ」と叫べる人の聲なりき、君は流星のごといと果無くて、逝き給ひしかど思へば誠に美しくも又大なる一生にておはしき。秋風渡る萩の葉末のゆらぎにも何ともなしに君の事ども思ひ出でて果無き涙とゞめもあへず。いでや文箱に秘めし君が御歌一ッ／＼に取り出でゝ過ぎしことども書きつゞりてん

卅六年の晩秋札幌に遊び給ひし時旅より

如何におはすと歌よむ君よ此頃は
　夢の中にも秋風ぞふく。

定めなき旅寐幾夜の秋ふけて
　今は愁の夢のみ多き。

思ひきや津輕の海を又越ゑて
　いにし思ひの後追はんとは。

沼津に於ける君。　次の夏沼津に過しける折、君興津より來り給ひぬ。一夜舟裝ひして江の浦靜浦のあたりに遊びぬ。月いと明かなりければ

靜浦を月夜小舟に渡り給ふ
　歌よむ君よ歌乞ひまつる。

と口ずさみ給ひぬ。金波銀波の海に浮び、そゞろ思を永遠にせて共に語らひし一夜は唯美しき夢の如くぞなつしかき。同行は岡村誠之の君と花野の四人なりしが、やがて牛臥の山麓にて小船は乘り捨てつ。

岡村、遠藤(千浪)の君などゝ千本松原に遊びしこと、一日ならざりしが或日の夕蟲の音きかんとて、われは君をさそひぬ。岡村ぬしの燈ともして鈴蟲捕らんとし給ふ後姿のおかしとて「…………あゝ誠之君」と詠ひ給ひしより其後岡村ぬしを「ア、誠之君」とよび、まつりなどして打興がり給ひき。

又或日宿の主人につれられて佐野の瀧に遊びしが、君はいたく喜び給ひて水彩スケッチなど物し給ひしこともありき。

西大久保に於ける君。　西大久保に移り給ひてよりは常に電車にて大學の圖書館とピヤノの稽古に通ひ給ひぬ。君が孤獨の生涯に唯一の慰籍者は實に書籍とピヤノの外なき。君愁を彈じ給へばピヤノは常にやさしき妻なりき、君喜びを彈じ給へばピヤノは常に溫き慈母なりき。圖書館に至りてはこれ君が常住の住家なりき。君は歸るさ、わざ／＼立ち寄り給ひしこともありしが何時も裏庭より「奥さんお庭の花咲きまし

たね」など先づ其挨拶なりき。美にあこがれて詩に生き給ふ君はまたこよなく草木を愛しみ給ひぬ、大久保のお庭廣しとにはあらねど草花數多植ゑつけて灌水より根分けに至るまで人手をからず愛しみ給ひき。毎年種子の交換などして互ひに誇り合ひ「私の庭の花も見てやつて下さい」とは常に君が御口を洩るゝ言葉なりき。あはれ千草八千草主なき庭に生ひや茂れる、實に果無きは花草の上のみにはあらざりき。

一昨年さる尼寺より貰ひ受け給ひし芙蓉のいと美しければ、今年こそは根分してまひらせんと芽の出づるを待ち給ひしかど、霜に枯れてやたゞ一本も芽をふかざりしかば「此が枯れたから自分の世ももう終りかも知れん」と彼のまめやかに仕へし老女に語り給ひしとか、まことや愛しむ主なくば咲き出でたりとて何にかはせん、たゞ君が住む永遠の御國の園をかざりてよ。

君はわけて月見草白百合を好み給ひしかば、去る五月の末つ方鎌倉の山にて、とらせし白百合をまひらせしに、いたく喜び給ひぬ

昨日は遠路わざ／＼御見舞下され、あまりに久々の御拜顔に候へば心も躍るばかりに嬉しく候ひし、いろ／＼外におはなしもと存じ候ひしも喜美ちやんの御望みにて御別れ申じ候ひしことあまりに、なごり惜しく候、お土産も何よりうれしく殊に百合の花早速植ゑ附け候へば花咲く頃をたゞなつかしく待たれ申候(五月二十六日)

とかくうつとうしい天氣に、趣も無候先日奥様より頂いた白百合昨日より咲き初めうれしく存じ候、花に代て御禮申上候……………私も追々よろしく候へば御目にかゝることも遠からじとたのしみ居り候、お庭のダリヤも美しく咲き初めたらんと存じ候、繪葉書ほしく候(六月十六日)

白百合の繪はがきうれしくてこそ、其はしにとて

草かげになに、なげくらん、うつむきて
咲く白百合の花のつゆけき

月見草も咲きそめたれば

月見草さき初めてより夕毎を
まつともなく人待たれぬる(六月二十日夕)

雨夕ぐれ咲く月見草のあはれなれば

なぐさめもなき世とてこそしほるらめ
雨の夜さく月見草の花　六月二十三日)

越ゑて八月六日、一百年前詩聖テニスンが生れしと云ふ日哲人齋藤野の人は遂に歸らぬべう此世を去り給ひき、噫。

左の文は君がおこし給ひし最後のものなりき

きみちやん御入院の由驚き申し候一日も早く御全快をと祈り申し候菊野様は御障りも何らせられぬにや、皆々様の御

心配つくる日もなきかとかなしく候、私は床を巣とするのみ、子燕の樣に外出はまだいたし兼ね申候(七月廿日)

最後に君がたまひしみ歌順序もなく書き並べぬ

春にたゐぬ我は雁の身花もなき
　北のはてこそ戀しかりかけれ。

清見潟しづむ夕の磯寺の
　鐘の音返す春の遠潮。(興津にて)

潮の音も霞みてけむる海を見て
　夢に見し世を行く心地かな。(鎌倉より)

をとゝひ夜半恐ろしき夢におそはれて自らの叫べる聲にあはたゝしく目ざめたるを思ひ出でたれば

神ゐますこの世にしあれば罪の子の
　戀なやましき春のあけぼの。(大久保より)

病める身を何か恨みむ夕潮の
　磯を歌ある君にまかせて。

病める身をこよひもゆるせこゆるぎの
　夕潮千鳥ゆめにきかまし。(都より鎌倉に)

光なき雨の夕べの別れこそ
　あまりにうすきゑにしなりけれ。

ひそかにも流るゝ星のあるものを
　かしらもたげよ姫百合の花。(姫百合を畫きた繪葉書の末に)

吹雪あらき北の小島の岩にたてる
　一本松を悲しとも見し

ほゝゐみの光と共に咲く花の
　一日の命短くはあらぬ

神ゐます神代なりせば千鳥とも
　我はならまし三保の松原

浪の響も重う沈みて　海には落ちぬ暮色のかげ
雲は夕日の色を載せて　沖を遙かに沖を幽かに。
おゝ夕暮の磯日立ちて、かこつや夢のいかに物うき
潮はつきせぬ愁を誘うて、沖を遙かに、沖を幽かに、沖を幽かに。

我等は七人

萩畔生譯

心地よげに呼吸し
各の四肢に生命の通ふを感ずる
世見ずのをとめ、
彼れや死についてあにをか知る。

われは小屋の小娘に遇へり、
「年齢は八歳」と云ふ、

髪は跗のまはりにふさなせる
多くの縮毛にて厚うなりぬ。
田舍育ちの森に住むともおぼ
しき風情、
粗野に着飾りつ、
目はうつくしかりき、いとう
つくしかりき、
其美しさわれを喜ばしむ。

「小娘よ、
幾人連枝ぞ、」
「幾人とや？皆んなで七人
よ」と、
おぞろき我れを見て、

「さて彼れ等は何處にか居
る、願くば告げよ。」
答へて云ふ「我等は七人、
二人はコンウエーに住み、
二人は海に行きぬ。

妹と、兄と、
二人は墓に眠る、
われは住む、墓地の小屋に
彼れ等のかたへに母とゝもに、

「二人はコンウエーに、
二人は海に、
なほ七人！と云ふ——
いつくしの少女よ、其こゝろ
は何乞ふ語れ、」

此時小娘は答へぬ、
「我等は七人の連枝、
その二人は墓地に伏す、
あの木の下に、」
「愛らしの小娘よ、おん身は走
りまはる、
おん身の四肢は生く、
さはれ二人は墓地に横はるを、
さらばおん身等は五人のみ。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小娘は答へぬ、
「墓は緑なり、そは望むを得べし、
母の戸より十二歩、三歩の處、
彼れ等相並んで眠る。

彼處に屢々わが靴下をあむ、
彼處にわが頭布をへりどる、
かくわれは彼處に地の上に坐す——
坐して彼れ等に歌ひきかす。

さて君よ、日沒の後
あかるく美くしき時、屢々
小さき粥椀をとりて、
われはそこに夕餉をしたゝむ。

始めは小さきゼーン、
呻きて床に臥しぬ、
神苦痛を鎮めたまひて、
彼の女の逝く迄、

かくして墓地に横はりぬ、

さて草の乾きし時、
兄のジョンと、私と、
共に墓のまはりに遊べり。

地が雪にて白うなりし時、
私は走り　又滑りなどして遊ぶを得たり、
ジョンもやむなく逝きぬ、
また彼の女のかたへに眠る。」

我れは云ひぬ「さらば幾人ぞ、
二人が天に在らば、」
小娘は答へつ、
「あゝ君、七人。」

「されど死したり、其二人は死したり、
彼れ等の靈は天に在り！」
言葉を斥けて、
なほもそのおもひを捨てんとは願はず、
「否々七人！」

（ヲーヅヲース）

痲痺したる良心

潑橋

○

彈力の衰へしゼンマイよ、
臍脫れし新き護謨鞠よ、
若くして痲痺したる良心よ。

さすらひに馴れし身のわづらひか。
早くより生活のくるしみに
陷りし避けがたきヂレンマか。

良心の鞭音のするごさや、
恐しき幻影と不眠症、
わが生の活力を滅ぼしぬ。

今とても良心をひらめきて、
あひ落つる光あり影もあり、
あゝされど、あさましや、眠られぬ夜はなし。

○

踠きつゝ爭ひし肉慾の敗亡を、
さかんなる白晝の日光に震ひつゝ、
悔む時、歎く時、麻繩と手を綯つて叫ぶ時、
靈魂のもなかより響きいづいと細き、
靜かなる聲ありてわが肉をおびやかす。
一月も二月も其後は事なしに過ぎにけり。
干潮の肉慾はうちそゝぐ滿潮の時となる。
われのみがひそやかに聞き知りし其聲に、
從ふも從はでごまかして過ぎ去るも、
われわれを赦す時、それですむ。
かく思ふ獸の辨解は、
痲痺したる良心を刻々に殺しゆく。

干潮の肉慾はうちそゝぐ滿潮の時となる。
麻痺したる良心は刻々に刻々に滅び行く。

和歌（二）

海より

松川信男

○萱島の巖の上の一つ松見ねばなつかし見ればかなしき

○あら潮のかをりみなぎり大岩に鷗むれ立ち今か日のぼる

○松が濱ほのかに白し一灣の月光をあび我は笛ふく

○あなにやし白帆けぶれり薔薇色に匂へる海の音ものごけし

○今日も亦濱なでしこを摘て來し海士の少女に何をとらせむ

○ほのぐらき浪をかすめて眞白羽の鳥かさびしきわが心飛ぶ

みちのくの旅

野口せい子

○大野原はてなく續く秋草に馬車は道しぬ陸奥の旅

○秋の日はうすれて寒しはてもなき花野の末に小馬一群

○墓となりし母をたづねて初秋の我旅かなし陸奥の大原

○朝靄のつめたうせまる野の小路手向の花に秋の草つむ

○御墓への花選りさせて父上の喜びますをかくれて泣きぬ

○聲をあげて泣たくなりし初秋の月見しのみに故はあらじを

○秋の晨草山行けば蟲の音は鈴ふるごとく我をむかへぬ

○草山にばつた追ふ子の影長く目白の森に日は入らんとす

○此情とはに失せなと祈るかな澄める御空にあをぐ朝富士

講壇

人間の教養

海老名彈正

人間の教養には無くてならぬ要素が二つある。一は境遇で一は理想である。理想と云ふは我々の中にあるもの即ち精神の狀態で、境遇は我々の外にあるもの、即ち我が生活する場所を指すのである。精神に理想が無いならば到底教養の目的を達する譯にはいかぬ。これは下等動物が段々と發展した過程から考へても能くわかる。彼等は一見何等の價値なきものゝ樣ではあるが深く調べるとそこには一種の生命があつて何物かを期して進んで行く、矢張一種の奮闘がある、努力がある。下等動物自身は固より如斯意識して爲すのではないが止むに止まれざる力に動かされて我知らず進化の道を辿る。或る動物學者は云ふ、彼等には生きたいと云ふ他に何の望もないと、けれども其生きたいといふ中には千萬無量の意義が籠つて居る。善ものは永く生殘つて自己の血を子孫に傳へる事が出來るが惡い者は何時か亡びるに違ひない、獨り現在を樂むにあらずして永遠の春を望むと云ふ思想は人間に依つて初めて見出さるゝ現象であるがその萠芽は此等下等動物の中にも必ず存するものと思ふ。古來我國の人は氏を重じたがあの氏と云ふものは二代や三代で出來たものでなくて何千何萬の年月の間雨に打たれ風にもまれ乍ら漸く出來た花であり實である。けれども我々の性質は唯祖先の血が流れ〳〵て我が中に傳はつたと云ふばかりでなくその間に外界の事情から色々の變化を受けて冬には冬に處する樣、夏には夏に堪ゆる樣に成つて來る。この時と場合に應じて變り行く所謂應化作用なるものは人間に迄進む上に於て極めて必要なるものであつたことは學者の一般に認むる所である。それならば人間と他の動物との異る點は何處にあるかと云へば自覺の有る無しに依る、何の爲に働くか何の爲めに奮闘するか、此意味を解釋した者は人間より外にない。甞つて基督は「我父は今に至る迄

働き給ふ」と仰せられたが此中には深き意味がある。人間がずん／＼と進んで來る時に其中に居て始終之を見て指導したるものは神である。世の人は唯進化の理法と言ふ言葉で云ひ盡さんとして居るがかく云はんには靈能の働は餘りに高くして且つ大なるに驚かざるを得ない。進化と云ふも發展と云ふもやがて神の妙なる活動の理法を謂ふ一端に過ぎないのであるさて自覺に這入りたる人はその靈能を以て何物をか作り出さずには居られない。こゝに理想が生まれる。恁うなると唯凝坐して居られない、忽ちに目的ある活動を初め出す、所謂天地の化育に參ずると云ふ譯で、我も水へなる

神の大御業に加はるのである

人間の出ない間は長い／＼時間を費して萬物が進化してきたのであつたが、人間が文明に趣くと同時に、凡てのものは頓に面目を新にしてきた。空飛ぶ鳥も野に咲く花も之に人工を加へると見違へる程奇麗になり、又役にも立つやうになつた。例へば無花果などは野にある儘では何にもならない。私の幼い頃乳々と云つてあの實から乳を出して遊んだものだが、あんな物でも人の手を加へると非常に發達する。けれどもそれは唯自己流で出來るのでなくて、天地の理法によらねばならない。即ち人が天の意を受けて働けば前に千年も二千年もかゝつたものが今は僅に百年位で進化すると云ふ譯になる。この進化の理法に基いて人間は社會を作り萬物の成育を計るのであるが、その源は皆理想の泉から湧き出る故に理想なきものは教養を受くる事は出來ない。昔の人が志は成るの半なりと云つたのは此邊の消息を傳へたものと思はれる。理想あれば元氣が出て大抵の事はどうかこうかやつつけて了ふ。けれども理想がなければ意氣は沈んで、とても仕方がない。大阪の大火の如きは實に悲慘の極であるが、理想を持つてかゝれば必ずしも悲しい事ばかりではない。若し大阪を東洋の大都會否世界の一大都會とする意氣込と理想があるならば、今回の火事は今迄の市街を革新する好個の機會である。あんな道の狹い都會は何處にもあるものではない、堂々たる日本の大都會でありながら道幅が二間や三間乃至は六間と云ふ様な事では仕方がない。大阪から來た人の話によれば今度は十二間に直すそうである。けれども手毬つく子も凧上げる子も自動車も人力車も皆悉く此道を通るのだらう。平素二間の道路を見た人々には廣いと思ふか知れんが、大都の理想を有する人はそんな事で滿足す可きものではない。此點に於てアングロサクソン人は實に偉いものである、彼等は一面保守的だが他面には大なる理想がある。祖先以來の法は守るけれども唯それに止まらずして新なるものを作る。彼等は故郷を愛するが自國で理想を實現することが困難であると思へば、加奈陀や

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

オーストラリヤ、其他の殖民地へ行つて、その平素の理想を實現せんと欲し此に働き戰うて此世を希望の天地と化し去らんとする。人は云ふ基督は學者でもない、議論家でもない、世に殘したものとては一片の小册子さへないと。實にそうである。けれども見よ彼に來れる人々には大なる理想が植ゑられたのである。否啻に理想のみに非ずして之に憧憬さるゝ精神を與へられたのである。否啻に憧憬と云はず、理想と云はず帶に劍し手に唾して立つ勇躍奮闘の心を與へられた。聖書を讀むと此思がひし〳〵と胸に滲み渡る。天國に入らんとするものは勵みて之を取れと云ひ、天の父の全き如く全くなる可しと云ふが如き、何れが此精神を述べたものでないものがあらう。

我國の人は僞をつく事や男女の亂倫を罪とも何とも思はぬがあれは實に恐る可き事である。けれども我々が僞をつかないならば時として不利であるかも知れない。けれども理想を抱いて神の前にひれ俯す人々は此苦痛を嘗めつゝ進まねばならぬ。歐米人が比較的進歩せるは幾分なりとも此精神があるからである、境遇の人に及ぼす力は甚だ大きいが之に對應する心掛のないものには何等の効果もない。私が初めて東海道を通つたのは未だ滊車の無い頃であつたから、途中人力車に乘つてゆくと、富士が見われる。景色に見とれて嗚呼いゝなどと思ふと獨り樂しんで居る事が出來ず、車夫にどうだね、あの景色は、と云ふと彼は平氣な顔をして毎日〳〵見て居ますから何とも思ひませんと答へた。心なしに見れば天地の粹を集めし美容の眺望も一顧の價値なきものと見われる。

境遇は靈能を自覺する人には偉大なる力がある。例へば日本の如き天地に生ひ立ちしものは知らず〳〵美を好む。夕雲に紅染むる山の端や瀨々に白む流の音ゆるき小川の樣は云ふも更なり南薩北越至る所美しき自然の景に接する事が出來る。從つて斧を肩に野山を廻る樵夫も波を枕の水夫も文字なき詩人である。これは未だ遠いが少し手近いを云ふと社會がある。

人は大概社會以上に拔ける

事の出來るものではない。であるから善き境遇を作るのは善い人を出す所以である。周圍の力の强い事は善い方からも分るが惡い方から見ると殊に明である。留岡幸助君が云つたが子供の時から極く惡い所に育つた者はひどい者で中には尋常に物を食べさせ樣としても取らぬ。而して躊躇して居るかと思ふと隙を見て鷹の如くチヨツトと掻浚ふ者がある。そうかと思ふと又或子供は三度〳〵油揚ばかり食うて居て若し飯でも食はせやうとしたら忽ち逃ける者があるそうだ。

諺に氏より育と云ふが、我は之に反して育より氏の方が大

切と思ふて居つたが。併し此等の話を聞くと此心動かざるを得ない。先頃朝日新聞に或高等女學校の卒業生が鐵は何から出來るとの問に對して泥からと答へた者があると書いてあつたが、恐くかゝる例は唯一二の事ではあるまい。こんな人は女學校で受けるより外に智識は得られないのであらう。女學校は五時間か三時間授業をするに止まつて居る。それを敎育と云へば唯學校に限られておると思ふのは非常な間違と云はなければならない。今日の如き不完全な人間よりして我々の理想する天國を建設する迄にはどれ程の月日を要するが分らない。けれども之が第一歩としては我々の中に健全なる團體を作らねばならぬ。家庭は當然此要求に應じて起たなければならぬ。之については敎會もなくてならぬものである。これとてもその要素は不完全な否な時として は惡い人から成り立つたのであるから思ふ樣には行かぬ。けれども他に比しては確に優さつて居ると思ふ。凡愚下根の身なれど心聖賢を期し小人なれど君子たらん事を希ひ、更に進んでは念々神を慕ひまつりて願くは父の全きが如く全くならんと云ふ時にその人は立派にならずに居られる者でない。而して如斯は我々の敎會が今日の時代に存在する所以である。故に敎會の建設は天國を建設する階段と云はねばならぬ。中には敎會の惡い方を見て一人若しくは二三の同志に交るのみで大なる團體に加はらんとせぬものがある。それでは己を濟うする事は出來るが社會に益する所は甚だ尠い。そこはどうしても基督の福音主義で行かねばならぬ。周圍には罪あるものもある、穢れたる者もある、けれども我も其中に入つて我を淸めると同時に人をも淸めねばならない。今の日本に於て滿足の出來ぬものは甚だ多いが、男女の倫理が立派に立つて居らぬとである。若しも男女が同學校に出入でもしたら、如何に亂るゝであらうか。西洋でも共學にはまるで弊がないと云ふのではないが淫りがはしき樣な事は滅多に無いこれと比べると我々が常に見聞する周圍の事實は實に恥ぢ入る事が多い。であるから我國では敎會の集會に對しても、邪念妄想を逞うして色々の事を云ふ、けれども妹の側に兄のあるのを見て何の惡感がある。何の疑がある。さすれば貞潔なる男女が相會した場合には疑ふ可き事は無い。併し私は今日直に男女を共學させよ、男女を自由に交際させよと云ふのではない。が少くとも此位の事が出來る時代を作る丈の覺悟がないならば、日本人は誠に憐む可き者である。

之を要するに吾人の敎養は一面淸く正しき神に憧憬れて奮闘努力する大精神を燃やすと共に眞且つ善なる社會を造つて敎導誘掖以て人物を陶冶するのである。この二つが備はらない間は到底十分の敎養は望まれないのである。

家庭學校を訪ふ

（父兄の一讀を望む）

一記者

小供は天國に屬す可きもの、其相貌と云へ、其言語擧動と云へ、無邪氣で愛くるしく家庭に於ける唯一の花で御座います。春の野に芽ぐんだ草も同じ事、開かば萬朶のあや錦、見るから誠に賴もしい感が起らざるを得ないのであります。家庭の幸不幸も一にかゝつて此小供の上あり、從つて又一國の運命にも影響する事が多いのですから、其教育には實に周到懇切な注意を拂はねばならぬ筈でありますのに、世の中では往々子供を厄介視して全然之を放擲しておく人もあり、又は學校教育に一任して一向頓着しない人が多いやうで御座います。小供の教育に周密な注意を拂つてれると思つてる人々でも、子供の學力及進級などゝ云ふ事に許り力を入れて、自らの子供が如何なる者にありつゝあるかと云ふ――即ち其思想及信仰等の人格構成の要素――には何等の老察をなしてゐないようであります。それかあらぬか近頃不良少年或は惡少年なる語が毎日のやうに新聞紙に見ゑ、何々少年團の檢擧とか又は拘引とかいふ記事が隨處に見る事が出來ます。漸く生ひかゝつた草の新芽が蕾も持たぬ中に惡虫に食れて。將來の希望を一朝にして失ふと云ふ事は何と痛ましい事ではありませんか。偶々記者は編輯局の命を受けて、十年以來不良少年感化を以て有名なる留岡氏の家庭學校を訪ねて其模樣を聞き、不幸なる少年の身に暗涙を灑ぎました。

訪ねたのは彼岸の二日目の午後もやゝ遲く、秋晴れの日光も木立のほとりでは影が暗かつた頃です、巢鴨庚申塚から畑道について行くと、榛の木が立込んだ頗る靜寂な處で、門を入ると純白な運動シャツとズボンに身を固めた生徒諸君と生先が一人、紅葉や栗やが美しく生ひてる廣い庭を懸命の掃除の處でした。掃目仔細で歩くにも惜しい位きれいです。瀟洒した一室に通されて待つ間、庭先を通る少年を見ると悉く皆怜悧そう、間の伸びた顏とては一人も見られない。惡い事をするだけにきび〳〵して見ゐるものゝ、何處か底の方に冷刻な色が沈んで見ゐるのがあはれで御座います。

どうして不良少年が出來るか

其源因を尋ぬれば悉く之れ家庭經營者の責任と云つて差支がない。無心の子供は周圍の境遇に從つて感化され生長し行く許で何等の罪もないのであります。無論中には社會組織が不完全な爲めに激しき生活難に襲はれて、子供の世話をなす遑がないといふ下級勞働者もあり、又兩

親に死分れて他の家庭に下僕として使役せられ、父母の慈愛を毫程も經驗せず、冷刻な鞭の痛みにひねくれた性根を自然に造つた少年もありませう。其狀態を擧げ來つたら數限りもない事でありますが、家庭の不健全と父母の不攝制が殆んど總ての原因をなしておるのでございます。今二三の例を擧げてみませうなら、

去年入學した十二歲の生徒は父母とも下等なる勞働者で、父母の病的遺傳があるものと見られて身體の發育が非常に不完全であります。父母は勞働によりて辛うじて生計を支ひておるので、朝早くより出かけ晩は遲く歸つて來る。此間子供は誰からの注意も制御も受くる事なく自由に放埒に任かされて、お腹がすいても誰も食を調へてくれる者がないから、自然他の子供のものをとる、又其中には詐して盜む智慧も出てくるのであります。父母が家に歸つて來ても勞働者の常として酒を飲む、夫婦喧嘩をする、賭博をする。見るもの聞くもの悉く野卑な下等な罪な事ばかりで、之を教育上から見ますると兩親はあつても、寐る處はあつても事實上全然捨てられたと同じ狀態であります。之でも兩親と云へるか家庭と云へるかと私共の目には不思議な位のものですが、勞働者といふ名の下に包括せらるゝ階級の中にはもつと甚しい事實かいくらもあると聞くに至つては實に寒心せざるを得ない次第であります。

不良少年の出來るのは必ずしも以上の如き貧乏なる家庭許りとは限らないのであります。不自由を知らぬ立派な富豪で次の實例があります。此富豪の家庭は何等の風波なく極めて靜かな家庭で、お母さんも溫良な性質主人(生徒の兄)は會社に通勤して夜きり家に居ないし、兄嫁も義理の間でありますから弟の身に就ては格別にやかましい事云ひませんので、子供は得たりかしこしと自由に外出し、金錢なども意の如くなる處から遂に惡友に交り、遊興をしたり又は良家の娘と關係をしたり、其惡事が兄の耳に入る頃にはさん〳〵の罪惡を重ねてゐたのでした。如何でせう斯樣な家庭で家族の人々も至極結構な人々の間から、かゝる惡少年が出ると云ふのも要するに子供に對する親切心がないのに基づくのであります。之によりて私共は極端な無監督と放任とは子供を墮落させる一大原因をなす事を見出すのであります、余りに嚴格に失し又は余りに口やかましく叱正する事も同時に子供を不良にする原因をなす事と共に心得ておかねばならぬ事と思ひます。

家庭學校では今現に四十三名の少年を收容しておるそうでありますが、兩親のなるなしの割合は無論親に分れた者が多いのでございます。殊に幼時母に分れた者程不憫なのはありません、順當に育つて來た子供でさへお母さんの胸を知らないものは、何處か寂しい影が附き纏つて、見張る目に語るむ調子に悲しい響がありますのに、人の手に彼方此方と引き廻されて、遂には當面に人を見得ないあはれな子供になりますとは何と云ふ可愛相な事で御座いませうか。それとは趣が異りますが繼母と子供の情合が見られる實例が御座います。

今年十七歲の子ですが幼い時お母さんを失ひましたが、直ぐに後添のお母さんが來ましたので、眞實實母と思つて長い間送つて來たのでした、尤も繼母も善良な性質で實子として可愛がり、母子の間よく和合して何等の滯もなかつたので

したが、漸く長ずるに従つて他人からチョイ〳〵告げ口されて之が實母でないと悟ると、從前の態度は全然一變し母親の親切な言葉も聞かず萬事に分け隔てをなして妙にひねくれて仕舞ました。母親の方でも甘くすれば付け上り嚴しくすれば亂暴する子供に對し、漸くいや氣がさして來て冷淡な取扱を致しましたので、子供は益々自棄を起して不良少年の仲間に入つたといふ事です。此例に於て母と子と何れが悪いかは別として、母なる人がも少し辛棒する親切心があつたらと口惜しくも思はれるのでありますが、之がなさぬ中とやら父母たる人は愼重に考へねばならぬ處と思ひます。

此外種々恐ろしい話を聞きました。椽の下に生み落されて疊といふものを知らない子や、幼時から油揚ばかり食はしてゐたので舌の味覺の變調を來たし、油揚の外何にも食ず、學校の食卓には油揚がないとて逃げ出した子の事や、何れ氣の毒な子供ばかり、聴いてる身に父兄の責任の重大なる事が犇々と思ひ當るのでした。

どうして之を感化するか

不良少年に共通した性質は、(一)虚言をつく事、(二)泣き張る事、(三)不潔不規律な事、(四)獨立心なき事、の四ケ條で、喧嘩もすれば盗みもすると云ふ子供だから、其矯正法も普大抵な骨打ではありますまい。朝五時に起床すると直ちに水浴をさせる、之も年長生徒が他より一時間早く起きて風呂に水を汲み込むとのこと。それが濟むと直ちに禮拜堂に集つて三十分間キリスト教主義によつて修身の講話をする。それから校の内外を掃除して七時に朝飯を食べて、八時から學科にとりかゝる。午後は一時から四時迄、普通農業や園藝や木工などの勞働をし、四時から五時迄又お掃除。五時に晩飯六時から八時迄は復習、それから就床と、朝から晩まで隙間なしに仕事をさせたり遊ば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せたり、一々教師が一所になつて規則正しき習慣を作るのが大體の方針でございますそうな。誠に恐ろしいのは習慣の力、斯様に悪事をする隙がないやうに、それからそれと規則正しくやつたなら、二年三年の間には大抵の子供は矯る事でせう。設立以來百四十人の少年を取扱つたそうですが六割乃至七割は感化されて善良な少年となりましたそうな、實に好成績と云はねばなりません。それで今年から東京府の感化部も併容する事となりましたそうで、留岡氏の事業が社會に認められて來た證據と見る事も出來ませう。

それで此學校の感化矯正は、(一)正直(二)勤勉、(三)清潔、(四)獨立、の四大綱を標語としておりまして、之れによりて生きた信仰を造らうと努力しておられます。無論此學校の中心は基督教思想ですけれど、極めて自由寛大な全く宗派心から獨立しておるのであります。留岡校長の訓話の多くが二宮尊徳翁の事業と精神から出ておるを見ても明かな事であります。床には釋迦と孔子の像が置かれてありました、之にキリスト像を加へて之を講堂に安置して三聖堂と名つけたいとの御計劃中で、萬事目から入れる學問の方針かと拜承してまゐりました。辭して歸る時は全くたそがれて人の顔さへさだかならぬに、食後の運動かワンストライク、ツーボールの元氣な聲を後にして歸りました。(九月廿三日)

人相談片

最上　宏

人相と云つても口唇だけに限つて申します、と云ふのは、大凡そ顔面中最も巧みに愛情を表はすものは、眼を除いては、只此口唇なるのみとある位、人相學の上からは此口唇中々大切な役目をなしております。親愛の肉欲的表彰として接吻があるなどは、よい證據で御座ろうか。案ずるに口唇の形狀は大小厚薄、千差萬別複雜繁多であつて、一々申す譯にはまゐらぬが、其極端なる基本の數例を擧げて御參考に供へませう。けれど一つ御斷りしおかなければならぬ事は、此記事を御覧になつて、そつと御自分の唇の厚薄を氣になさるのは一向差支御座らぬがお隣の妙子さんの口は大きいから、選擧運動のお先棒にいゝわなどゝ大それた失禮は夢にも御斷り申しておきます。

肥大なる口唇、　潤つて且つ紅色なるは男女の愛情旺盛なると同時に飲食的嗜欲も強大なものとしてあります。從て身體も壯健で、肉體的動物的機能の全部が頗る活潑に發育せるを表はすも、之に反し不撓不屈の氣象に乏しく、且つ優美閑雅なる思想は此者には望み難い。左れど一生涯を家饒に安樂に送るに適しております、此種の口唇少しく過大となれば酒色に耽り禮儀作法の外に逸して亂行するもの少くありません。

廣大なる口唇　同時に顴骨が突張りて耳と耳との間も發育強大にして從て顔面廣かるべし。

此種の人は理性と自我の念旺盛にして野心大望を企圖て且つ決行し辛抱も我慢も強く猛進する性分です。且つ持續堪久の性質に富み、其體格も動作も言語も皆剛直にして家庭や社會に對して嚴格の思想を有する人が多いやうです。史上に表はれておる英雄豪傑の士皆多くは此種の人に屬してゐます、豐太閤、徳川家康、ナポレオン、セシルローズ、ルースベル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ト、横井小楠、岩倉具視、大久保伊東、木戸孝允、伊藤公、大隈伯皆此種の好モデルです、然し此種の口唇過大となると則ち剛愎不敵野心希望過大にして進むを知つて退くを知らず行つて改むるなしと云ふ様な、極めて持てあまし者となるのであります。

○○○○○弓なるに唇　此程の者は愛情に富み優美閑雅にして體格は比較的强大でない文學技藝に發達し一藝一能の士となる事が出來る。けれども其の唇の發育薄弱、且つ細小なの時は俗事に拙くして濟政の才なく身家の保安維持も覺束なく一生を貧乏して送るものが多い。

○○突唇　此は動物に近き形狀で殆ど動物に近き性狀を有し目前の飲食慾男女間の愛情に止まりて、更に遠大優美なる思慮感想のあるなく、野蠻人や下等人種に此種の口唇が多い。古人が「口唇尖るは心に毒あり人の寶を奪ふ」と云へるは決して偶然でないのであります。

○○○上唇尖出　するは肉食動物と同じき形貌であつて性も猛烈で萬事破壞を好み平和なる思想は甚だ乏しい、又口唇を開放して〆くゝりなきは心に〆くゝりなくだらしなき相にして日本人にも敢て少しとせず、支那人には殊に多いやうだ。電車の中又は往來の人を注意し居れば、中々に面白き例證を實見し得られます。之に反し常に口唇を結びて歯を露はさないのは秘密性に富み心に〆くゝりのある人です。

○○出歯　なれば性質正直であつて、氣も强く萬事むき出しにして、一方向きの馬車馬的人物多く、心に決しては少しも遠慮せぬ性分なり故に清濁包容の大度量は此程の人に期し難い、源義經は出歯だといふ噂だが、彼の言行を追想して見ると成る程さうなづかれる點もあるやうに見ゑます。

○○○○口の大なる女子　は榮養も愛情も氣力も旺盛なれども、女子の特長とすべき柔和溫良の性質少い。從て豪膽不敵に傾き男子を壓し、良人を尻に敷く底の事が時々起つて來る。愛國婦人會や婦人矯風會や女子撰擧權獲得運動の如きに活動する婦人には此種のものが適任者だ。古來女傑と呼ばれたるは此種の婦人多く奥村五百子も口が大きかつたやうだ。

○○○○○口の小なる男子　為す事企つる事皆な小く萬事萬端柔和を求め、勇敢活潑なる行為を避け、從て交際家とか外交家とか云はれる者は此種の人でない。左れど智力道德心は却て强大にして、厭世的脫俗的の行為を好み、思索家として書齋的生活を樂むものが多い。

○○○薄唇男子　人に對して愛情薄く萬事に不忠實にして、住所にも緣薄く從て妻子婢僕に和睦して家庭の圓滿などは此男に望む事は出來ない。四方に放浪して我盡を働き從順なる所なく、短氣輕卒にて一定の職業に固定するこが出來ない性分で、それがため一生を不遇に送るものが多い。此種の人は御用心々々々。

〰〰〰〰〰

母「昨夜、お前、喧嘩の夢でも見たと見ゑて、腕なんか振廻して大變だつたよ。

太郎「そう、それぢや、今夜は寢ずに居て見てやろう。

〰〰〰〰〰

編輯だより

○

▲秋意漸く深くして神身正に清爽、活動によろしく又冥想によろしき時と相成申候。窓を漏るゝ燈火の痛切なる刺戟を以て人心に迫り候など、讀書子の自ら奮發せしめらるゝ處に有之候。吾等は讀者諸君と共に此好季に際して更に健闘致度存候。

▲此十月は基督教界に於て最も多忙なる時に候、之が爲めに東京は宗教的活動の中樞の感を呈し候。日本基督教會の大會は一日より開かるべく、開教五十年の大祝賀會は愈々五日より開會せらるべし、想ふに此會は過去五十年の苦闘と將來の熱切なる企圖に對し、最良の動機と調和を與ふる點に於て尠からざる効を與ふる事と存候。

▲更に吾組合教會の總會は來十六日より開かるゝ答に候、十三日より十五日迄は府下羽田の幽閑なる邊に教師會を開きて、教師の修養及總會に對する靈的準備をなす由に候、此會に於て元良博士は「近時の心理學」を講演せらる可く、島村抱月氏は「近時の文學」に就て講演せらるゝ答に候。二氏の講演により て教師諸君は開發せらるゝ處多かるべきを疑はず候

▲十六日午後二時よりは靈南坂教會堂に於て婦人會開催の豫定にて、本誌主筆安井哲子及宮川經輝二氏の講演有之候吾等は裏心より其成功を祈り申候。

○

▲前號所載のある文に就て讀者諸君より御注意を蒙りたるは編輯者の感謝して措かざる次第に有之候。多忙の際編者の粗漏より穩かならざる作品を掲載致したるは、同人に於ても不本意なる處、決して吾等の眞意には之れなく候、さるにても之によりて本誌に對する讀者諸君の好意と希望とを明かに承知致す事を得、一層努力して本誌内容の改善に勉め諸君の好意に酬度覺悟を强めたる次第に有之候。

▲本誌生れて未だ漸く半年に過ぎず候も月次其發行部數の增加を見るは誠に人意を强う致す次第に御座候、斯く申せば自薦甚だ禮を失する觀有之候も現在世間に行はれおる婦人の雜誌にして、眞に主張あり主義ありて日本現代の婦人に惻々の情を禁じ得ざる底の態度を見得るもの果して幾何か之れあり候や多くは之れ貧弱なる内容を奇抜なる題を以て蔽ひ、巧みに人心を釣らんとするものにあらざるはなし、輕兆浮薄誠に痛心の至に有之候。願くば吾等微なりと雖もかゝる風潮に抗し、健實なる思想と態度により益々吾等の主張に向つて猛進せん事を期し候、逐號讀者諸君の御愛顧を希望致候。

○

▲從來も種々の投書有之候ひしが今後も諸械の投稿を歡迎致候。

▲次號締切は十月十三日、本社事務所宛御送を願ひ候。

▲最後に讀者諸君の健康を祈る。

本誌定價 一部金拾錢(郵稅ナシ)◎六部半年分前金六十錢(郵稅ナシ)◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢(郵稅ナシ)。

外國行定價 壹部金拾四錢(郵稅ナシ)◎半年分前金八拾錢(郵稅ナシ)一ケ年分前金壹圓六拾錢(郵稅ナシ)

廣告料	
行 廿七字詰	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
内表紙十二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年九月二十八日印刷
明治四十二年十月　一　日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彥

發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二一番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）

電話茅ヶ崎（二一番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一回一日發行

ライオン煉歯磨

朝の寝覺の心地悪しきも一度ライオン煉歯磨を用ゆれば心身忽ち快活なること恰も大旱の苗に沛然の雨を得たるが如し
尚且つ歯牙をして健全雪白ならしむ特效に至りては既に愛用諸彦の實驗に徴して明なり

新製(十二)號は乳白色の瓶入にてニッケル蓋を有し體裁美なる楕圓形にして日常の御使用に便なり

◉定價　壹個僅に　十二錢

試用見本

として御入用の方は郵券十二錢御送付あれ一個郵送す

發賣元
東京神田柳原川岸
小林富次郎

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十二年十月一日發行第壹卷第七號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN